

南相馬市博物館年報

令和 7 年度

令和 8 年 8 月

南相馬市博物館

発刊にあたって

令和7年度は、南相馬市博物館が平成7年8月に開館してから30周年を迎えた節目の年となりました。当館は、歴史・民俗・自然に加え、国指定重要無形文化財「相馬野馬追」を特色とする地域博物館「野馬追の里歴史民俗資料館」という名称で開館して以降、資料の収集・保存、調査研究、展示、教育普及などの活動を重ねてまいりました。

この30年間、私たちを取り巻く社会や地域の状況は大きく変化しました。とりわけ平成23年の東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故は、南相馬市の暮らしや地域社会に大きな影響をもたらしました。当館も一時休館を余儀なくされましたが、その後の再開を経て、開館以来の活動に加え、震災に関する資料や記録を収集し、それらを後世へ伝える取り組みを進めてきました。また、新型コロナウイルス感染症の拡大など、社会状況の変化に対応しながら、地域に根差した博物館活動を継続してまいりました。

近年、博物館を取り巻く環境も大きく変化しています。博物館法の改正などを背景として、博物館には、資料の収集・保存、調査研究、展示、教育普及といった従来からの活動を着実にを行うことに加え、その成果を積極的に社会へ還元し、地域や多様な主体と連携していくことが、これまで以上に求められています。当館においても、地域の歴史・文化・自然について学び、理解を深める機会を提供することで、郷土への愛着や誇り、地域のアイデンティティを育む社会教育施設としての役割を果たすとともに、文化観光をはじめとする地域振興などにも寄与する博物館を目指してまいります。

本年報は、令和7年度における当館の運営状況と事業実績を取りまとめたものです。開館30周年という節目に実施した事業をはじめ、一年間の博物館活動をご覧いただければ幸いです。

30年間の歩みに感謝するとともに、次の時代に向けて、地域の歴史・文化・自然を未来へつなぐ拠点として、その役割を着実に果たしてまいります。

今後とも皆様のご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

令和8年8月

南相馬市博物館

館長 二上文彦

目 次

発刊にあたって

I	南相馬市博物館の沿革	1
II	施設・設備の概要、機能	6
	1. 建物の概要	6
	2. 施設の概要	6
	3. 施設の機能	6
III	常設展示事業	7
	1. 展示の概要	7
	2. 展示資料の概要	7
IV	令和7年度事業実施概要	9
	1. 企画展示事業	9
	2. その他の展示事業	18
	3. 資料収集管理事業	22
	4. 調査研究事業	24
	5. 教育普及事業	27
	6. 恐竜化石探索調査・教育普及事業	33
	7. その他の事業	35
	8. 情報発信	36
V	管理運営	41
	1. 組織・職員	41
	2. 各委員会等	42
	3. 予 算	44
	4. 入館者統計等	44
VI	資 料	46
	1. 南相馬市立博物館条例	46
	2. 南相馬市立博物館規則	48
	3. 南相馬市立博物館美術品等購入選定委員会要綱	50
	4. 南相馬市博物館収集展示委員会設置要綱	51
	5. 南相馬市博物館収集展示委員会運営細則	51
	6. 南相馬市博物館資料調査協力員会設置要綱	52
	7. 南相馬市博物館の資料収集に関する基本方針	52

I 南相馬市博物館の沿革

- 平成2年6月 建設基本構想検討委員会・起草委員会・庁内検討委員会を設置
- 3年3月 第1回建設基本構想検討委員会を開催
- 4年1月 資料館建設庁内プロジェクトチーム設置
- 4月 資料館収集展示委員会設置
- 10月 資料館基本設計実施設計検討委員会設置
- 11月 資料館展示工事・建築工事基本設計業務委託
- 5年5月 資料館建築工事・展示工事実施設計業務委託
- 6年2月 建築工事現場工事着工
- 7年3月 建築完成引渡
- 8月 「野馬追の里歴史民俗資料館」開館
開館記念特別企画展「野馬追の歴史をふりかえる」
第1期「野馬追の歴史」展・第2期「馬の装い 鞍と鐙」展開催
- 8年4月 開館記念特別企画展「野馬追の歴史をふりかえる」
第3期「中ノ郷騎馬武者の甲冑」展・第4期「もののぐの優美」展開催
- 5月 博物館法に定める博物館に登録
- 8月 第3回企画展「縄文土器は語る ―発掘された太古のくらし」開催
- 12月 第4回企画展「神々をまねくお神楽たち ―獅子神楽の世界」開催
- 9年4月 第5回企画展「交通にみる近代化 ―海岸線の開通」開催
- 7月 第6回企画展「造形の美 ―当世具足の世界」開催
- 10月 第7回企画展「相馬中村藩の御仕法」開催
- 10年4月 「野馬追の里原町市立博物館」に名称変更
- 4月 第8回企画展「海の住人クジラ ―浜通りのクジラ化石」開催
- 6月 入館者5万人達成
- 7月 第9回企画展「武家の繁栄 ―祈りのしるし」開催
- 10月 第10回企画展「絵図からみた原町の周辺 ―江戸時代の地域観」開催
- 11年4月 第11回企画展「相馬のやきもの ―収蔵資料を中心として」開催
- 7月 第12回企画展「近世大名家の名品展 ―奥州板倉家を中心として」開催
- 12年1月 第13回企画展「古代の瓦と今の瓦 ―泉廃寺跡を中心として」開催
- 4月 福島県立美術館移動展「近代日本美術と相双の美術家たち」開催
- 7月 第14回企画展「鐙 ―その歴史と美」開催
- 10月 第15回企画展「絵馬 祈りと願い ―相双地方を中心として」開催
- 12月 映像「南相馬の炭焼き」第6回全国地域映像コンクール優秀賞受賞
- 13年4月 第16回企画展「相馬の鋳物師 ―かなものの歴史と技術―」開催
- 7月 「野馬追」展開催
- 8月 夏休み特別企画「原町の鳥たち」開催
- 14年1月 第17回企画展「篆刻の世界 ―林泉汀作品を中心として―」開催
- 4月 福島県文化財センター白河館巡回展「新編陸奥国風土記 ―巻之一 白河郡」開催
- 7月 「野馬追」展開催
- 8月 入館者10万人達成

I 南相馬市博物館の沿革

- 平成14年 8 月 夏休み特別企画「原始・古代のくらしと道具」開催
10 月 第18回企画展「米づくり ―むかしの暮らしの中で」開催
- 15年 1 月 第19回企画展「中村藩の炮術 ―関流炮術を中心として―」開催
4 月 特別展「相馬地方の恐竜時代」開催
6 月 第20回企画展「大名具足と相馬の武具」開催
7 月 「野馬追」展開催
8 月 夏休み特別企画「よみ・かき・そろばん① ―江戸時代の風景―」開催
10 月 第21回企画展「相馬地方の妙見信仰 ―千葉氏から相馬氏へ―」開催
- 16年 1 月 発掘調査成果展「埋もれていた古のくらし ―はらまちの遺跡Ⅰ―」開催
2 月 市制50周年記念展「写真で見る原町市の50年」
4 月 福島県立博物館移動展「博物館から歴史を学ぶ」開催
7 月 「野馬追」展開催
8 月 夏休み特別企画「昔の道具とくらし」開催
10 月 第22回企画展「原町の動物 けもの・カエル・ヘビの仲間」開催
- 17年 1 月 第23回企画展「戦国時代の相馬」開催
4 月 開館10周年記念特別展「原町市の文化財」開催
6 月 「野馬追」展開催
7 月 夏休み特別企画「はらまちの川と自然」
9 月 第24回企画展「発掘された日本列島2005」開催
- 18年 1 月 3 市町合併に伴い、博物館の名称を「南相馬市博物館」に変更
第25回企画展「自然の恵みと祭り ―海と川―」開催
4 月 特別展「南相馬市の生き物 ―ふるさとの動物と植物―」開催
入館者15万人達成
7 月 第26回企画展「野馬追たんけん隊」開催
9 月 第27回企画展「相馬の画人 堀池雲岳をめぐる世界」開催
- 19年 1 月 特別展「描かれた相馬野馬追」開催
4 月 特別展「みんな集まれ！ お宝だどお～ ―最近の博物館収蔵資料から―」開催
7 月 野馬追資料特別陳列
8 月 特別展「はくぶつかんで見たよ！ ―教科書につなぐ博物館資料―」開催
「報徳記原稿」特別公開
9 月 第28回企画展「将門伝説 ―相馬と周辺地域―」開催
11 月 杉並区立郷土博物館共催展「相馬野馬追 ―受け継がれる武家の伝統―」開催
(於：杉並区立郷土博物館分館)
- 20年 1 月 第29回企画展「先人の足跡 ―竹島國基が歩いた遺跡―」開催
4 月 特別展「南相馬市の武家文化 ―指定文化財から―」開催
5 月 杉並区立郷土博物館共催展「杉並文学館 ―井伏鱒二と阿佐ヶ谷文士―」開催
7 月 野馬追資料特別陳列
8 月 特別展「朝日座の軌跡 地方の映画館が遺したもの」開催
10 月 第30回企画展「田んぼのいきもの・たからもの ―人とともに歩んできた自然―」開催
- 21年 1 月 第31回企画展「相馬の武士 町に住む武士・村に住む武士」開催
4 月 特別展「アンモナイト・ワールド ―相馬地方のアンモナイトとその仲間たち―」開催

- 平成21年 7 月 野馬追資料特別陳列
- 8 月 「福島県歴史資料館収蔵資料からみた 南相馬のちょっと昔」 展開催
- 10月 第32回企画展「相馬の馬」 開催
入館者20万人達成
- 22年 1 月 第33回企画展「相馬駒焼」 開催
- 4 月 特別展「真野川のしぜん ―なにがいの？ しょくぶつ・どうぶつ―」 開催
- 6 月 野馬追資料特別陳列
- 8 月 第34回企画展「台所からキッチンへ ―道具に見る便利さのゆくえ―」 開催
- 10月 特別展「鹿島区の寺院展 ―指定文化財を中心に―」 開催
- 23年 1 月 企画展「古代陸奥の国 行方の郡家 ―国史跡 泉官衛遺跡―」 開催
- 3 月11日 東日本大震災発生
- 3 月12日 休館。東京電力(株)福島第一原子力発電所事故発生
- 8 月 5 ～ 7 日 除染実施
- 8 月 9 日 一部業務再開
- 24年 1 月 特別展「ふるさと再発見 私たちのたからもの」 開催
- 4 月 特別展「阿武隈高地の生き物たち ―未来に向かって、生きる―」 開催
- 6 月 特別展「相馬のたから 相馬野馬追」 開催
- 9 月 福島県立美術館移動美術展「ふるさとの記憶 安らぎの美術」 開催
- 10月 福島県立博物館移動展「ジュラシック相馬 化石が語る恐竜時代の相馬地域」 開催
- 25年 1 月 特別展「ふるさと小高」 開催
- 4 月 特別展「福島に生きる ―福島県の野生生物とナチュラリストたち―」 開催
- 7 月 特別展「野馬追の今と昔」 開催
- 9 月 特別展「鹿島のたからもの 南相馬市のなかで」 開催
- 12月 映像「相馬野馬追 ―真夏を疾走する伝統行事―」 第11回全国地域映像コンクールグランプリ受賞
- 26年 1 月 特別展「原町無線塔 ―世界をつないだ白亜の巨塔」 開催
- 4 月 特別展「被災地の原野に生きる ―南相馬市の生き物と人・暮らし―」 開催
- 6 月 復興浜団共催「こころの金魚 深堀隆介展 in 福島」 開催
特別展「野馬追のビジュアルいまむかし」 開催
- 8 月 国立科学博物館共催「震災復興・国立科学博物館コラボミュージアム 南相馬にアロサウルスがきたぞ！」 開催
- 27年 1 月 特別展「博物館収蔵資料」 開催
- 4 月 特別展「ふくしまに生きる爬虫・両生類 ―身近な生き物から未来の南相馬・福島を考える―」 開催
- 6 月 特別展「相馬の物具文化」 開催
- 8 月 武者絵展実行委員会共催「大武者絵展」 開催
- 9 月 特別展「戦後70年記念 原町飛行場と戦争」 開催
- 10月 入館者25万人達成
特別展「SACRIFICE―眠る地層にささげる花」 開催
- 28年 1 月 福島県立博物館移動展「被災地からの考古学1 ―福島県浜通り地方の原始・古代―in 南相馬」 開催

I 南相馬市博物館の沿革

- 平成28年 4月 特別展「文化財に見る市制10年の歩み 震災からの心の復興」開催
7月 特別展「野馬追屏風の世界」開催
9月 特別展「報徳仕法と浄土真宗門徒移民 奥州中村藩の復興への取り組み」開催
29年 1月 特別展「櫻井先生のあつめた浜通りの花々」開催
4月 特別展「博物館収蔵資料展2017」開催
7月 特別展「武士の備え」開催
9月 特別展「被災地の海を生きる ―わたしたちの海 未来につなげる蒼い海―」開催
11月 特別展「東北押し葉標本」開催
12月 映像「日吉神社の浜下り」第15回全国地域映像コンクール梶原拓記念奨励賞受賞
30年 1月 特別展「日本の凧 ―大橋コレクション―」開催
4月 特別展「南相馬の樹」開催
6月 特別展「伊達成実 南相馬に来たる ―北の大地に共存する相馬と伊達―」開催
9月 特別展「描かれた相馬野馬追2018」開催
31年 1月 特別展「相双の化石大集合！」開催
4月 企画展「双葉地方の昆虫」開催
令和元年 5月1日 「平成」から「令和」に改元
6月 企画展「武士の装い ―とりどりのかたち」開催
9月 企画展「奥相三十三所観音札所巡り」開催
11月 国立科学博物館巡回展「日本の生物多様性とその保全」開催
令和2年 4～6月 新型コロナウイルス感染症拡大の影響および空調設備工事のため、臨時休館
7月 「相馬野馬追収蔵資料」展開催
10月 企画展「冥界へようこそ ―仏画・幽霊画などからみた死生観―」開催
令和3年 3月 企画展「南相馬の震災10年」開催
市内における新型コロナウイルス感染症拡大、市内施設の感染症対策確認のため2日間臨時休館
7月 市内における、新型コロナウイルス感染症のクラスター発生による、福島県の「南相馬市における新型コロナ感染症集中対策」のため24日間臨時休館
企画展「受け継がれる伝統のチカラ 相馬野馬追」開催
11月 企画展「中村藩と近代のはじまり」開催
令和4年 1～2月 新型コロナウイルス感染症急拡大のため臨時休館。当初は1月31日までであったが、その後2月6日まで休館延長、さらに福島県の「まん延防止等重点措置」の重点措置地域に指定されたため2月20日まで休館再延長
2月 企画展「やってきました！ 猫展 浮世絵で見る人と猫の文化史」開催
3月 文化庁「食文化ミュージアム」事業において当館が認定される。
3月16日に発生した福島県沖地震（最大震度6強）を受け、利用上の安全確認のため1日間臨時休館
4月 企画展「震災復興と発掘調査」開催
7月 「相馬野馬追収蔵資料展」開催
10月 企画展「相双地方の被爆体験を伝え継ぐ ―証言 ヒロシマ・ナガサキのこと―」開催
令和5年 1月 企画展「倉科光子植物画展 ツナミプランツ ―津波浸水域の植物たち―」開催
4月 福島県立博物館移動展「アンモナイト合戦in南相馬」開催

- 令和5年6月 入館者30万人達成
- 7月 企画展「野馬追絵図とは何か」開催
- 11月 企画展「相馬重胤の下向と奥州相馬氏」開催
- 令和6年3月 企画展「しらべてわかった！ おだかの自然」開催
- 5月 企画展「五月中の申 御野馬追」開催
- 9月 浦尻貝塚縄文の丘公園オープン記念企画展「縄文 みなみそうま」開催
- 令和7年3月 企画展「寄贈コレクションで見る日本近現代の彫刻」開催
- 4月 企画展「野馬追トラベラーズ」開催
- 8月 企画展「近代の戦争と南相馬」開催
- 12月 企画展「記憶を紡ぐー南相馬市博物館30年」開催

Ⅱ 施設・設備の概要、機能

1. 建物の概要

建築面積／2,288.6㎡

構 造／鉄筋コンクリート平屋建て（一部地下一階）

敷地面積／4,729.08㎡（県営広域公園内）

2. 施設の概要

管理部門／事務室 体験学習室 補修工作室 写場 燻蒸室 シアター
エントランスホール

展示部門／常設展示室 特別展示室 展示ホール

収蔵部門／収蔵庫 特別収蔵庫

機械設備／高圧受電設備 空気調和設備 消防設備 防犯設備

部門別床面積／管理・機械部門 1,051.6㎡

展 示 部 門 754.0㎡

収 蔵 部 門 483.0㎡

駐 車 場／博物館駐車場 15台

公園南側駐車場（公園施設）74台

公園北側駐車場（公園施設）81台

3. 施設の機能

常設展示室／野馬追部門 自然部門 考古部門 歴史部門 民俗部門

特別展示室／年 3 回程度開催 定期企画展

シアター／映像による資料案内および学習（150インチ スクリーン対応映像設備）

収容人員83人（うち車椅子席 3 席）

体験学習室／収容人員43人 講演会・講座・講習会

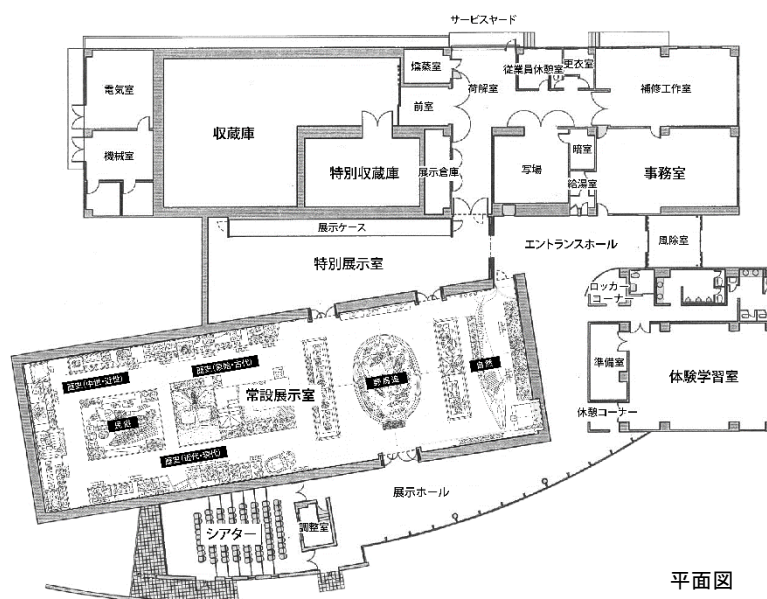
収 蔵 庫／積層棚 225㎡

特別収蔵庫／積層棚・箆筒 70㎡

補修工作室／資料復元補修および研究施設 84㎡

燻 蒸 室／展示・収蔵資料の燻蒸施設 12㎡

写 場／収蔵資料の写真撮影施設 42㎡



平面図

Ⅲ 常設展示事業

1. 展示の概要

常設展示室と特別展示室を中心にシアター、展示ホール、エントランスホールによって構成している。国指定重要無形民俗文化財「相馬野馬追」をはじめ、この地方に関する自然や歴史、民俗についての資料を公開することによって、野馬追の里として特色のある歴史と文化を紹介している。

常設展示室は野馬追、自然、歴史（原始・古代、中世・近世、近代・現代）、民俗の各部門で構成し、それぞれの展示テーマをもとに実物資料やグラフィック資料、映像資料、複製資料などを複合的に組み合わせた展示をしている。

順路は野馬追部門、自然部門、歴史部門、民俗部門へと続く。歴史部門の中央には羽山横穴の復元模型、実物の古代製鉄炉、近代・現代の文化人のコーナーがある。民俗部門は「馬と生きる」「新田川の恵み」の2つのテーマを設け展示している。

そのほか、各分野のミニテーマを展示するコーナーもある。

2. 展示資料の概要

◆野馬追

神旗争奪戦ジオラマ 相馬野馬追諸道具（甲冑 相馬太田神社神輿 野馬追列帳 神旗 野馬懸諸道具など）
相馬野馬追図屏風（複製） 野馬追絵巻（映像）

◆自然

化石（古生代～新生代） 小型肉食恐竜足跡化石 ヒゲクジラ類脊椎骨化石 岩石標本 南相馬市原町区の地形模型 動植物のジオラマ 動植物写真パネル 人の進化（猿人、原人、旧人、新人の頭蓋骨標本） 馬の進化（図）
南相馬市の自然（映像） 剥製（ウサギ・キジなど） 昆虫標本（ハッチョウトンボなど）

◆歴史（原始・古代）

旧石器 縄文土器 縄文時代の狩猟具・漁労具・加工具 縄文土偶 縄文人の装飾品 鷲内遺跡出土編組製品（クルミかご） 縄文人の作業のようす（模型） 弥生時代の農耕具 桜井遺跡出土品 古墳および横穴群地図 桜井古墳群出土品（底部穿孔二重口縁壺・銅鏡・鉄製直刀） 竪穴住居（高見町A遺跡1号住居跡の模型） 高見町遺跡出土の塩釜式土器 羽山横穴の実物大模型および出土品 泉官衙遺跡出土品 大六天遺跡出土品 蛭沢遺跡群出土品 広畑遺跡出土墨書土器 金沢地区製鉄遺跡群長瀬遺跡竪形炉（実物） 陸奥国官衙関連遺跡（図） 行方八社（図）

◆歴史（中世・近世）

相馬氏の歴代系図 牛越城（模型） 中世行方地方の村（図） 県指定重要文化財木造十一面観音立像（模型） 相馬岡田文書（複製） 板碑（模型） 中村藩領地目録 三百一本の槍 給人郷土関係文書 中村藩の武士制度（図） 原ノ町宿（模型） 商家の店頭風景（実物大模型） 天明の飢饉関係文書 報徳仕法関係文書 二宮尊徳坐像 富田高慶坐像（複製） 武山家住宅（模型）

◆歴史（近代・現代）

原ノ町誕生までの町村の変遷図 戊辰戦争関係文書 官員文書（役職名簿） 明治初年行方郡行政区分（図） 日清・日露戦争関係図 関東大震災関係文書 手回し映写機 常磐線開通間もない頃の前ノ町駅構内（写真） 原町紡織機工場（写真） 原町紡織機関係文書 無線塔主塔（模型） 昭和初期の前ノ町駅のようす（模型および映像） 転車台（模型） C62機関車（模型） 原町飛行場関係写真 特別攻撃隊の写真および遺品 薬莢・銃弾 配給品購入台帳 戦時中の雑誌 農地解放関係図・写真 常磐線の電化完成（写真） 開業当時の丸三製紙機原町工場（写真） 無線塔解体（写真） 佐藤精明関係遺品 羽根田利夫関係文書および写真 羽根田利夫新彗星発見時の手作り望遠鏡 昭和41年製軽自動車（スバル360） 無線塔頭部（屋外展示） C50機関車（屋外展示）

◆民俗

農耕馬の模型および馬耕用具 かなぐつ屋の用具 フイゴ 蹄鉄 馬頭観世音石塔（模型） 絵馬 馬頭尊の護摩札 猿駒曳の護符 水産旧慣調（写真） 川舟 川漁関係写真および用具 鮭運搬用具 ヤナ場（模型） サケ雌雄（剥製） 明治・大正・昭和・平成時代の鮭漁（写真） 鮭料理（模型）

Ⅲ 常設展示事業



◆野馬追

相馬野馬追の勇壮な神旗争奪戦をジオラマで再現している。このほかに甲冑や野馬追の祭具、野馬追図屏風などを展示。野馬追の歴史と変遷を解説。



◆自然

自然との共存をテーマに、秋の山里の動植物を再現したジオラマ、原町区の地形模型、ヒゲクジラ類化石、ジュラ紀動植物化石の展示ほか、人や馬の進化を解説。



◆歴史（原始・古代）

旧石器時代から平安時代まで、市内出土資料を中心に展示。史跡浦尻貝塚・桜井古墳・羽山横穴・泉官衙遺跡をはじめ、全国的にもまれな鷲内遺跡出土の編組製品（クルミかご）など、近年の発掘調査の成果から、当時の人びとの生活や文化を解説。



◆歴史（中世・近世）

鎌倉時代から江戸時代までの、相馬氏の統治、中世の信仰、原ノ町宿の復元模型、天明の飢饉と村おこし、奥州中村藩の政治、報徳仕法などの資料を展示し、解説。



◆歴史（近代・現代）

戊辰戦争から現代までの、明治・大正・昭和の世相を示す資料とともに、無線塔や転車台、昔の原ノ町駅の風景などの復元模型を展示。また、原町の文化人の紹介も行う。



◆民俗

人と馬、人と川との関わりを紹介する。馬を使った農耕具や絵馬などの馬に関する資料、鮭漁のヤナ場のようなすや漁に使用された道具を通し、人びとの暮らしぶりを紹介。

IV 令和7年度事業実施概要

1. 企画展示事業

(1) 「野馬追トラベラーズ」 ※ふくしまプレDC特別企画

[担当学芸員] 二上文彦

[期 間] 令和7年4月26日～7月6日 62日間

[観覧者数] 2,561人（一般：2,257人 高校生：25人 小中学生：279人）

[内 容] 江戸時代には中村藩主相馬家の年中行事として開催され、明治時代以降に神社の神事として継承されてきた野馬追は、伝統行事でありながらも“見もの”として人気があり、江戸時代から多くの旅人たちが野馬追見物のため当地方を訪れていた。それは明治以降も続き、野馬追は相馬名物として定着した。このような「観光資源」としての側面は、現代野馬追を継続する推進力のひとつとなっている。

ここでは「旅・観光」という視点から、民衆が野馬追をどのように見て、楽しんでいたのか、江戸時代から続く野馬追の観光資源としての側面を、資料（絵図、古文書、古写真等）によって紹介した。

[展示構成]

- 江戸時代の人びとと野馬追
- 明治時代以降の野馬追と観光・旅

[関連事業]

・展示解説会

日時：①令和7年5月11日・②6月15日

それぞれ13時30分～15時30分

解説：二上文彦

参加者：計34人（①14人、②20人）

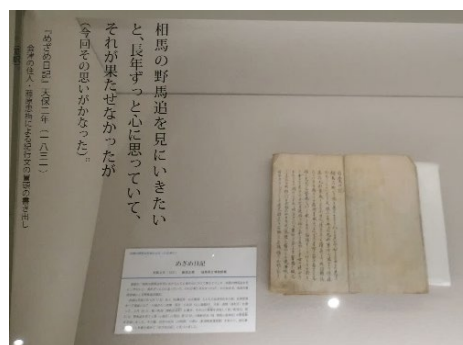
・講座「野馬追の精神と藩政への影響について」

日時：令和6年6月7日 13時30分～15時30分

講師：二上裕嗣氏（元福島県立医科大学非常勤講師）

参加者：34人

[展示資料]



会津から野馬追見物に来た旅人の紀行文
（「めざめ日記」福島県立博物館所蔵）

No.	名 称	備考（作者・制作年など）	所蔵等
江戸時代の人びとと野馬追			
1	日本国中御祭番付	木版刷 江戸時代末期	個人
2	諸国御祭礼番付	木版刷 江戸時代末期	個人
3	祥胤朝臣御年譜十七	寛政11年（1799）5月14日の項	相馬家
4	充胤公御年譜 卷六	天保11年（1840）6月の項	相馬家
5	めざめ日記	天保2年（1831） 藤原忠梅	福島県立博物館
6	東奥紀行	寛政4年（1792） 長久保赤水	当館
7	諸国名所百景 奥州相馬妙見祭馬追の図	多色木版刷 安政6年（1859） 二代歌川広重	当館
8	奥州相馬妙見祭 其一 行列之図	多色木版刷 江戸時代後期か 一立斎広重写	当館
9	奥州相馬妙見祭 其二 野馬追之図	多色木版刷 江戸時代後期か 一立斎広重写	当館

Ⅳ 令和7年度事業実施概要

No.	名 称	備考（作者・制作年など）	所蔵等
10	奥州相馬妙見祭野馬追之図 包装紙	江戸時代後期か 発行：松寿堂／売払所：青田彦兵衛	当館
11	従山形相馬迄路記	紙本著色 卷子 天保7年（1836） 笠原住順	個人
12	奥州相馬氏馬狩図	紙本墨画 卷子 安永10年（1781） 鳳雛写	当館
13	相馬之馬追祭図	紙本著色 卷子 江戸時代 多田満寿	坂東郷土館ミュージズ
14	里芋の吸い物（レプリカ）		当館
15	切たまご（レプリカ）		当館
16	煎り酒（レプリカ）		当館
17	江戸時代のかけそば（レプリカ）		当館
18	江戸時代のかけうどん（レプリカ）		当館
19	益胤公御年譜	文化12年（1815）5月12日の項	相馬家
明治時代以降の野馬追と観光・旅			
20	明治時代の中村神社の神旗	明治41年（1908）	個人
21	磐城国相馬三社祭礼馳馬之図	木版刷 明治26年（1893）中村町旅 宿・柳屋源次郎	当館
22	天下一 磐城相馬野馬追祭典全図	銅版画 明治35年（1902）仙台市 山 本音四郎	個人
23	日和田駅 野馬追観覧団体旅行募集チラシ	昭和7年（1932）	当館
24	「野馬追号」愛称・行先板（サボ）	昭和中期	個人
25	名物 相馬まんじゅう包装紙	大正後期～昭和初期 松月堂石田屋	舘岡敏美
26	弁当包装紙	大正後期～昭和初期 丸屋花月館	舘岡敏美
27	弁当包装紙	昭和10年（1935）か 中野屋旅館	舘岡敏美
28	相馬地方名勝案内	昭和5年（1930） 仙台鉄道局発行	佐藤健一氏
29	相馬野馬追之景	明治39年（1906） 佐藤徳助誌・晴峰画	当館
30	野馬追絵はがき包装紙（3点）	明治時代か、昭和初期、昭和12年（1937）	佐藤健一氏
31	野馬追絵はがき（夜の森での宵乗り）	明治～大正時代か	佐藤健一氏
32	野馬追絵はがき（川に浸かって御行列 を待つ騎馬武者）	近代（年代不明）	佐藤健一氏
33	野馬追絵はがき（明治時代の行列）	明治41年（1908）発行 嘉仁親王台覧 記念絵はがき	佐藤健一氏
34	野馬追絵はがき（かつての雲雀ヶ原）	大正9年（1920）以降	佐藤健一氏
35	野馬追絵はがき（戦前の神旗争奪戦）	近代（年代不明）	佐藤健一氏
36	野馬追絵はがき（戦前の野馬懸）	近代（年代不明）	佐藤健一氏
37	野馬追絵はがき（皇太子殿下台覧記念）	明治41年（1908）発行 3枚一組＋包 装紙	個人
38	野馬追絵はがき（桜田烈士五十年祭）	明治43年（1910）4月撮影	個人
39	野馬追騎馬武者土人形	昭和4～30年（1929～55）頃 佐藤政 蔵作	個人
40	ふところ硯	明治39年（1906） 遅塚麗水	当館
41	風月余情	明治41年（1908） 吉田宇之助（勿来）	当館

No.	名 称	備考（作者・制作年など）	所蔵等
42	相馬野馬追ポスター	昭和32年（1957）、昭和45～51年（1970～76）、昭和53年（1978）	当館
43	亀屋菓子店チラシ	平成初期か	当館
44	そうまの銘水（ペットボトル）	平成30年（2018） 相馬地方水道企業団	当館
45	サントリーモルツ 相馬野馬追パッケージ	平成3年（1991） サントリー㈱	個人
46	日清焼きそばU.F.O 東北夏祭りめぐり「相馬野馬追」	平成17年（2005） 日清食品㈱	当館
47	相馬野馬追観光たばこ（セブンスター）	昭和53年（1978）	当館
48	相馬野馬追観光たばこ（販促ポスター）	昭和53年（1978）か	個人

（２）「近代の戦争と南相馬」

〔担当学芸員〕 森 晃洋

〔期 間〕 令和7年8月2日～11月3日 81日間

〔観覧者数〕 2,317人（一般1,821人、高校生27人、小・中学生469人）

〔内 容〕 明治維新によって近代という新しい時代を迎えてから約80年間、日本は戊辰戦争・西南戦争という国内戦争を経て、日清戦争・日露戦争・第一次世界大戦・日中戦争・第二次世界大戦（太平洋戦争）という対外戦争を経験してきた。明治維新以降、人びとの日常は戦争に翻弄されつづけてきたといえることができる。

その後、昭和20年8月のポツダム宣言の受諾、9月の降伏調印文書の調印によって日本は敗戦し、第二次世界大戦はようやく終わりを迎えた。令和7年はそこから80年の節目にあたる。そこで、戦争に関する企画展を開催し、戦争について考えるきっかけとした。

また、教科書にも記されるこれらの戦争を、南相馬という地域に大きな影響を与えた出来事として、私たちが意識することは少ない。そこで、地域にとって戦争が日常だった時代を、当館収蔵資料を中心に市内に残された数々の資料をとおして紹介する展示内容とした。

〔展示構成〕

1. 新しい国づくりと戦争
2. 国をあげての戦争
3. 長くつづいた戦争
4. 戦後の復興に向けて

〔エントランスホール〕 矢川原に墜落した特攻機

市内に残る戦争慰霊碑と顕彰碑

〔関連事業〕

- ・記念講演会「空襲と私」

日時：令和7年8月23日 13時30分～15時00分

講師：大槻明生氏

参加者：44人

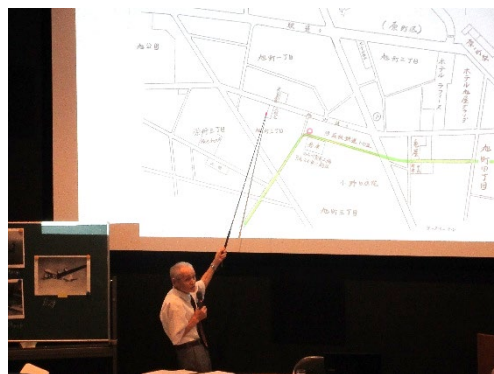
- ・企画展解説会

日時：①令和7年9月6日・②10月4日

それぞれ13時30分～15時30分

解説：森 晃洋

参加者：19人（①9人、②10人）



記念講演会「空襲と私」

Ⅳ 令和7年度事業実施概要

[展示資料]

No.	名 称	備考（作者・制作年など）	所蔵等
新しい国づくりと戦争			
1	日記牒並陣中日記	慶応4年（1868）正月～12月	個人
2	戦闘帳	明治10年（1877）5月17日	牛来承子氏
国をあげての戦争			
3	従軍日記	明治27～28年（1894～95）	佐藤陽一氏
4	台湾守備日記	明治29年（1896）	佐藤陽一氏
5	日本帝国明治二十七八年従軍記章之証	明治28年（1896）	当館
6	太田弼の陸軍兵籍	明治27～39年（1894～1906）	当館
7	林弁治の軍隊手帳	明治30～37年（1897～1904）	当館
8	日露戦争実記 其一	明治37年（1897）	当館
9	日露戦争従軍者の記録	明治	当館
10	修正本邦史綱 下巻	明治41年（1908）	当館
11	戦時における肥料の増産奨励	大正3年（1914）	上太田行政区
12	第一次世界大戦参戦にあたり相馬郡長訓令	大正3年（1914）	上太田行政区
13	サガレン州派遣兵への慰問袋製作のための現金募集	大正10年（1921）	上太田行政区
長くつづいた戦争			
14	満州事変 国防献品記念録	昭和8年（1933）	当館
15	雲雀ヶ原に着陸した愛国福島号	昭和7年（1932） 写真パネル	個人
16	支那従軍記章之証	昭和15年（1940）	当館
17	長門第二分隊集合写真	昭和14年（1946） 写真パネル	当館
18	日支事変軍艦長門参加紀年 写真	昭和12・13年（1936～38）	当館
19	板倉芳美日記	昭和16年（1941）	板倉好幸氏
20	入団に対し示達事項	昭和17年（1942）	板倉好幸氏
21	板倉光男日記	昭和17年（1942）	板倉好幸氏
22	山本保 祝出征幟旗	昭和19年（1944）	当館
23	山本保 出征記念写真	昭和19年（1944） 写真パネル	個人
24	木幡正 祝入営幟旗	昭和	当館
25	石神村大字馬場 歡送出征軍人幟旗	昭和	当館
26	出征する兵士と徴発される馬 写真	昭和	当館
27	日の丸寄書「祈千虎願」	昭和10年代	当館
28	日の丸寄書「祝入団」	昭和10年代	当館
29	千人針「必勝」	昭和	当館
30	千人針「武運長久」	昭和	当館
31	戦死を伝える手紙	昭和21年（1946）	当館
32	日本赤十字社救護看護婦 第48救護班 紺野ハナイ 写真	昭和	当館
33	日本赤十字社救護看護婦 本部第301救護班 紺野ヒサ子 写真	昭和	当館
34	紺野ハナイ 葬儀写真	昭和 写真パネル	当館

No.	名 称	備考（作者・制作年など）	所蔵等
35	夏休の友	昭和15年（1940）	当館
36	出征兵士への慰問文	昭和16年（1941）	牛来承子氏
37	大津国民学校女子児童からの手紙	昭和19年（1944）	当館
38	小高国民学校 疎開関係書類綴	昭和19年度（1944）	小高小学校
39	学寮平面図 東京都長崎第四国民学校小 高分教場	昭和19年（1944）	小高小学校
40	銚田陸軍飛行学校原町分教所 集合写真	昭和18年（1943）頃	当館
41	加藤美喜子日記	昭和19～20年（1944～45）	当館
42	中田茂からの手紙	昭和20年（1945）	当館
43	操縦日誌	昭和20年（1945）	当館
44	南沢実が父に宛てた手紙	昭和	当館
45	信州隊 集合写真	昭和	当館
46	信州隊尾翼マークと藤田魁	昭和	当館
47	国華隊と相馬高等女学校生徒 集合写真	昭和	当館
48	国華隊 寄書	昭和	当館
49	国華隊 遺書の書かれたハンカチ	昭和	当館
50	中野磐雄からの手紙（特別教育終了につ き近況報告）	昭和17年（1942）	当館
51	中野磐雄からの手紙（三重海軍航空隊で の生活）	昭和17年（1942）	当館
52	中野磐雄からの葉書（予科練を卒業し航 空隊入隊）	昭和18年（1943）	当館
53	飛行機の前に立つ中野磐雄	昭和	当館
54	中野磐雄 葬儀写真	昭和	当館
55	原町国民学校 学校日誌	昭和20年度（1945）	原町第一小学校
56	20ミリ機関銃弾頭	昭和	当館
戦後の復興に向けて			
57	大字協議録	昭和20年（1945）	高一行政区
58	高平国民学校 国民学校一覧表	昭和16年度（1941）～	高平小学校
59	原町議会に提出された原町事務報告書	昭和22年（1947）	当館
矢川原に墜落した特攻機（エントランスホール）			
60	九九式双発軽爆撃機 胴体の一部	昭和20年（1945）	当館
市内に残る戦争慰霊碑と顕彰碑（エントランスホール）			
61	故陸軍中尉武藤正夫・飯村勝男 殉職之碑	昭和19年（1944） 写真パネル	小高区
62	殉国碑、忠魂碑、戊辰戦死之神霊	昭和31年（1956）、大正3年（1914）、 明治17年（1884） 写真パネル	小高区
63	日清日露従軍記念碑	昭和3年（1914） 写真パネル	鹿島区
64	日露戦争従軍記念碑、英霊之碑	明治41年（1908）、昭和41年（1966） 写真パネル	鹿島区
65	日支事変軍馬碑	昭和14年（1908） 写真パネル	原町区
66	原町飛行場関係戦没者慰霊碑	昭和46年（1971） 写真パネル	原町区
67	海軍少尉中野磐雄之像	昭和55年（1980） 写真パネル	原町区
68	海軍少尉志賀敏美之像	平成17年（2005） 写真パネル	原町区

（３）「記憶を紡ぐー南相馬市博物館30年」

[担当学芸員] 二上文彦、齋藤直之、森 晃洋、仲川邦広、佐藤義典、川崎 悠

[期 間] 令和7年12月6日～令和8年3月22日 87日間

[観覧者数] 1,325人（一般1,629人、高校生8人、小・中学生305人）

[内 容] 南相馬市博物館は、平成7年（1995）8月、野馬追の里歴史民俗資料館という名称で旧原町市の博物館として開館し、今年、令和7年度で開館30周年を迎えた。

開館以来、当市を中心とした自然・考古・歴史・民俗、当地方の伝統行事「相馬野馬追」の資料収集・保管・調査研究をしながら、有史以前の地層や化石、生き物たちを育む山・川・海などの“大地の記憶”、原始・古代から現代までの資料や語り継がれてきた“先人たちの記憶”、そして東日本大震災や新型コロナウイルス感染症などを経験した“私たちの記憶”を集積してきた。

これらの記憶を紡ぐため、当館が取り組んでき30年間の活動（企画展や調査研究）から、当館のあゆみと役割をあらためて見つめる機会とし、これからの博物館活動への期待や関心を深めていただくきっかけとした。

[展示構成]

I. 博物館30年のあゆみ

1. データや写真でみる30年
2. 調査研究と資料収集
 - ・野馬追資料の調査
 - ・郷土食の調査
3. 企画展をふりかえる
4. 鹿島歴史民俗資料館

II. “わたしたちの記憶”の集積

1. 東日本大震災の記憶
2. 新型コロナウイルス流行時の記憶
3. 関係者からの一言

[エントランスホール]

ポスターでみる博物館30年のあゆみ

[関連事業]

博物館創設時～開館初期の協力者による講座や、東日本大震災時の元職員などを招いた座談会を開催

・講座「南相馬市の〇〇のはなし」

① 自然編「南相馬 5億年の自然史」

日時：令和8年2月28日 13時30分～

講師：竹谷陽二郎氏（南相馬市博物館協議会委員）

参加者：28人

② 民俗編「『知』を蓄積するー南相馬市博物館の力量」

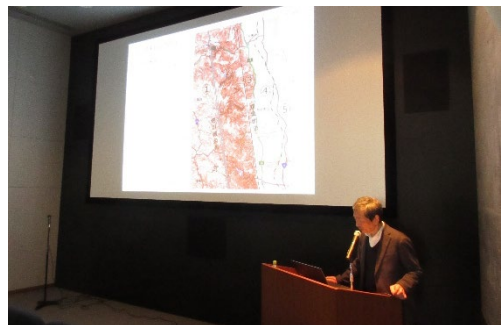
日時：令和8年3月8日 13時30分～

講師：岩崎真幸氏（南相馬市博物館協議会会長）

参加者：24人



企画展「記憶を紡ぐー南相馬市博物館30年」の一部



講座 自然編「南相馬 5億年の自然史」のようす



講座 民俗編「『知』を蓄積するー南相馬市博物館の力量」のようす

③ 考古編「博物館開館30年と南相馬市の考古学」

日時：令和8年3月21日 13時30分～

講師：玉川一郎氏（南相馬市博物館収集展示委員会副委員長）

参加者：29人

・座談会「まちの博物館 開館～震災～この先のこと」

日時：令和8年3月14日 13時30分～

講師：二上裕嗣氏（南相馬市博物館収集展示委員会委員長）

佐藤祐子氏（つきさっぷ郷土資料館 副館長／元南相馬市博物館学芸員）

藤田宏幸氏（高平生涯学習センター所長／元南相馬市博物館係長）

参加者：17人

講座 考古編「博物館開館30年と南相馬市の考古学」
展示解説をまじえて

座談会「まちの博物館 開館～震災～この先のこと」

[展示資料]

No.	名 称	備考（作者・制作年など）	所蔵等
博物館30年のあゆみ			
1	南相馬市博物館（旧野馬追の里歴史民俗資料館）模型（1/200）	榎伊藤喜三郎建築研究所製作	当館
博物館の資料収集と調査研究			
2	キムリエラ・デンシフォリア	裸子植物ベネチテス類 ジュラ紀後期 栃窪層 原町区信田沢産 荒好氏採集 市天然記念物	当館
野馬追資料の調査			
3	野馬追備列絵巻「殿 御旗本備」巻	作者不明 江戸時代後期	当館
4	野馬追備列絵巻 「二之先手 土大将 相馬主税組」巻	作者不明 江戸時代後期	当館
5	車前子前立	伝相馬家所用 江戸時代	当館
郷土食の調査 *すべてレプリカ・当館蔵			
No.	資料分類	資料名	点数
1	主菜（春）	アイナメのたたき、コウナゴの天ぷら	2
2	主菜（春・秋）	ガニマキ（原町区深野、鹿島区上栃窪）	2
3	主菜（夏）	カツオの焼き漬け	1
4	主菜（秋・冬）	ドンコの煮付け、焼きドンコ、コンニャクの刺身	3
5	主菜（冬）	サッターロウと丸大根の煮つけ	1
6	主菜（冬／年取り）	子持ちガレイの煮付け	1
7	主菜（通年）	お煮しめ	1
8	副菜（春）	アサツキの酢味噌和え、フキの油炒め	2

Ⅳ 令和7年度事業実施概要

No.	資料分類	資料名	点数
9	副菜（初夏）	梅干し、ジャガイモの味噌炒め	2
10	副菜（夏）	キュウリの味噌汁、しそ巻きとせつぷく南蛮	2
11	副菜（秋）	アミタケのおろし和え、キノコとナスのじんだ和え	2
12	副菜（晩秋・冬）	ベンケイ	1
13	副菜（冬・早春）	アンコウのとも和え（切干大根入り・切干大根なし）	2
14	副菜（正月）	いかにんじん、豆数の子	2
15	副菜（通年）	キュウリの古漬け、ポテトサラダ	2
16	ご飯（春・秋）	おはぎ（じんだ、あんこ、じゅうねん）	3
17	ご飯（秋）	イノハナご飯、栗ご飯	1
18	ご飯（冬）	納豆餅、豆腐餅、からみ（大根おろし）餅、凍み餅	2
19	ご飯（6月～1月）	ホッキご飯、ホッキカレー	2
20	ご飯（通年）	味噌おにぎり	4
21	菓子類（春／端午の節句）	柏餅	1
22	菓子類（秋）	イチジクの砂糖煮、干し柿	2
23	菓子類（冬）	干し柿の大根巻き、ユズの砂糖漬け、かんてん	3
24	菓子類（節分）	節分用豆	1
企画展「縄文土器は語る」			
No.	名 称	備考（作者・制作年など）	所蔵等
1	深鉢	縄文時代中期 原町区滝ノ原遺跡	当館
2	注口土器	縄文時代晩期 鹿島区一杯清水遺跡	当館
3	土器製作の工程レプリカ	成形、施文、乾燥と焼成	当館
4	縄文土器の文様標本	無節斜縄文、単節斜縄文、複節斜縄文、羽状縄文、撚糸文、網目状撚糸文	当館
企画展「戦国時代の相馬」			
1	相馬氏歴代当主肖像	江戸時代以降	個人
2	歓喜寺宛相馬頭胤書状	天文12年（1543）頃	当館
3	俵口左衛門宛相馬義胤書状	文禄5年（1596）頃	当館
4	三神宛田村氏寄進状	慶長5年（1600）	個人
5	小高城跡の金箔瓦	慶長8～16年（1603～11）頃、市有形文化財	個人
企画展「相馬の馬」			
1	薬箆筥	伯楽（馬医者）が使用していた百味箆筥	当館
2	真鍮造馬頭観世音坐像	明治26年（1893）。真鍮製本体と厨子、造立棟札	渡部栄助氏
3	馬頭観世音御本尊掛軸	明治か。馬頭院（栃木県那須郡那珂川町）	渡部栄助氏
4	蹄鉗子		当館
5	馬の治療器具	メス、笹針等	当館
6	七夕馬	藁製、鹿島歴史民俗資料館旧蔵	当館
7	功勞馬預託繁畜場看板	近代。軍馬が預託された繁畜場の看板	当館
企画展「しらべてわかった！ おだかの自然」			
			*すべて当館蔵・寄託
No.	資料分類	おもな資料	点数
1	地質・化石標本	八丈石山花崗岩、塚原層化石、大年寺層化石、湯長谷層群（五安層、水野谷層）化石	42

No.	資料分類	おもな資料	点数
2	植物レプリカ	ミズアオイ・ツツイトモ（レプリカ）	2
3	菌類（キノコ）レプリカ・模型	シロオニタケ、コウタケほか	11
4	野鳥剥製	オオバン、ヒヨドリほか	14
5	哺乳類剥製	タヌキ、カヤネズミほか	6
6	昆虫標本	チョウ、トンボ、水生昆虫、陸生コウチュウ、バッタ	309

鹿島歴史民俗資料館

No.	名 称	備考（作者・制作年など）	所蔵等
1	地経象限儀（地緯象限儀）	江戸時代 市有形民俗文化財	南右田神社所蔵
2	地平半円儀	江戸時代 市有形民俗文化財	南右田神社所蔵
3	小方儀	江戸時代 市有形民俗文化財	南右田神社所蔵
4	『量地三略』 乾・坤（復刻版）	慶応元年（1865）	南右田神社所蔵
5	ニルソニオクレイダス・タイラエ	裸子植物ソテツ類 ジュラ紀後期 栃窪層 鹿島区小山田産 平宗雄氏採集 市天然記念物	当館
6	ニルソニオクレイダス・ジャポニカス	裸子植物ソテツ類 ジュラ紀後期 栃窪層 鹿島区小山田産 平宗雄氏採集 市天然記念物	当館
7	テニオプテリス・ソーマエンシス	所属不明植物 ジュラ紀後期 栃窪層 鹿島 区小山田産 平宗雄氏採集	当館
8	ペロウデア・ニッポニカ	所属不明植物 ジュラ紀後期 栃窪層 鹿島 区小山田産 平宗雄氏採集	当館

“わたしたちの記憶”の集積―東日本大震災と新型コロナウイルス感染症拡大

No.	名 称	備考（作者・制作年など）	所蔵等
1	原発事故「警戒区域」立入禁止の看板	平成23年（2011）	当館
2	平成23年（2011）3月11日の日めくり カレンダー	平成23年（2011） 小高区	当館（小高区 個人寄贈）
3	児童画「また、あのときのように」	令和3年（2021）西郡愛貴画 第9回野馬追 の里南相馬ー子どもたちが描くふるさと絵画 展ー入賞	当館（西郡愛 貴氏寄贈）
4	児童画「2021年の野馬追」	令和3年（2021）和田にこ画 第9回野馬追 の里南相馬ー子どもたちが描くふるさと絵画 展ー入賞	当館（西郡愛 貴氏寄贈）
5	国内で配布されたガーゼ製マスク（ア ベノマスク）	令和2年（2020）	当館
6	市内で配布された不織布製マスク	令和2年（2020）	当館

関係者からの一言（パネル展示）

No	テーマ	寄稿者名	所 属
1	新たな博学連携の行方ー期待と充実ー	岡田清一	南相馬市博物館協議会委員、東北福祉大学 名誉教授
2	「知」を蓄積するー南相馬市博物館の 力量	岩崎真幸	南相馬市博物館協議会会長、みちのく民俗 文化財研究所代表
3	南相馬市博物館30周年に寄せて	竹谷陽二郎	南相馬市博物館協議会委員、元福島県立博 物館学芸員
4	南相馬市博物館と共に歩んで30年	平 宗雄	南相馬市博物館収集展示委員会委員

ポスターでみる博物館30年のあゆみ（エントランスホール）

*すべて当館蔵

No.	ポスタータイトル	備 考
1	野馬追の里歴史民俗資料館 開館	開館記念

Ⅳ 令和7年度事業実施概要

No.	ポスタータイトル	備 考
2	野馬追の歴史をふりかえる	開館記念特別企画展
3	交通にみる近代化 海岸線の開通	平成9年4月企画展
4	海の住人クジラ 浜通りのクジラ化石	平成10年4月企画展
5	相馬のやきもの 収蔵資料を中心として	平成11年4月企画展
6	絵馬 祈りと願い 相双地方を中心として	平成12年11月企画展
7	相馬の鋳物師 かなものの歴史と技術	平成13年4月企画展
8	米づくり むかしの暮らしの中で	平成14年10月企画展
9	大名具足と相馬の武具	平成15年8月企画展 原町市制施行50年記念
10	原町の動物 けもの・カエル・ヘビの仲間	平成16年10月企画展
11	原町市の文化財	平成17年4月企画展 開館10周年記念
12	自然の恵みと祭り 海と川	平成18年1月企画展
13	将門伝説 相馬と周辺地域	平成19年9月企画展
14	田んぼの生きもの・たからもの 人とともに歩んできた自然	平成20年10月企画展
15	相馬駒焼展	平成22年1月企画展
16	古代陸奥国 行方の郡家 国史跡泉官衙遺跡	平成23年1月企画展 国史跡指定記念
17	ふるさと小高	平成25年1月企画展
18	鹿島のたからもの 南相馬市のなかで	平成25年9月企画展
19	被災地の原野に生きる 南相馬市の生き物と人・暮らし	平成26年4月企画展
20	南相馬にアロサウルスがきたぞ！	平成26年8月企画展 震災復興・国立科学博物館コラボミュージアム
21	原町飛行場と戦争展	平成27年9月企画展 戦後70年記念
22	野馬追屏風の世界	平成28年7月企画展
23	東北おし葉標本展	平成29年11月企画展
24	相双の化石大集合!!	平成31年1月企画展
25	奥相三十三所観音巡り	令和元年9月企画展
26	南相馬の震災10年	令和3年3月企画展
27	中村藩と近代のはじまり	令和3年11月企画展
28	震災復興と発掘調査	令和4年4月企画展
29	野馬追絵図とは何か？	令和5年7月企画展
30	縄文みなみそうま	令和6年9月 浦尻貝塚縄文の丘公園オープン記念

2. その他の展示事業

(1) ミニテーマコーナー

常設展示室の一部に小展示スペースを設け、学芸調査による研究成果の一部を展示した。

① 婚礼の装いー花嫁のすがた

〔担当学芸員〕 佐藤義典

〔期 間〕 令和7年2月1日～5月16日

〔内 容〕 昭和初期から中期に使われた花嫁衣裳を実物と写真で紹介

〔展示資料〕 髪飾り、色打掛、白振袖

② 養蚕の道具

[担当学芸員] 佐藤義典

[期 間] 令和7年5月16日～

令和8年5月6日

[内 容] 明治時代から昭和50年代までに相馬地方で使われた養蚕道具の実物を展示

[展示資料] 種紙、カルトン、簇折機、回転簇、毛羽取機



養蚕の道具

(2) エントランスホール展示

季節の話題・ニュース性があるテーマ、また常設展・企画展の導入としてエントランスホールを活用し、展示や情報提供を行った。

テーマ [担当学芸員]	展示期間	資料名
メダカ、ドジョウ（生態展示）[仲川邦広]	常 設 *令和5年8月に水槽増設	市内流域に野生で生息するミナミメダカと外来種の淡水エビ、ヒガシマドジョウ、ホトケドジョウなど
みなみそうま地域学術団体紹介コーナー 自然と歴史ぶんかの窓 [仲川邦広]	常 設	日本野鳥の会南相馬ほか、市内で活動する学術団体の紹介、活動情報の掲載等
「食文化ミュージアム」認定について [川崎 悠]	常 設 *令和4年7月14日～	文化庁「食文化ミュージアム」に認定された概要のパネル
機織り（動態展示）[佐藤義典]	随 時	機織り機（高機）*年に数回、機織り体験実施
南相馬味めぐり 春編2025 [川崎 悠]	令和7年 3月18日～5月31日	郷土料理レプリカ（タケノコご飯、柏餅、生青海苔の酢の物、生青海苔の天ぷら、山菜の天ぷら、こごみの胡麻和え）
修復された木造聖観音菩薩立像 [森 晃洋]	令和7年 4月8日～30日	木造聖観音菩薩立像（江垂／市指定有形文化財）
甲冑 [二上文彦]	5月1日～7月20日	朱漆塗伊予札紺糸威二枚胴具足、畳胴
相双のホッキガイ [川崎 悠]	6月1日～8月21日	郷土料理レプリカ（ホッキ飯、ホッキカレー）、吉田屋源兵衛覚日記（抜粋）のパネル
報徳仕法といもずいも [川崎 悠]	8月22日～11月13日	郷土料理レプリカ（いもずいも、おでん、赤飯）、中村藩と報徳仕法のパネル、涼ヶ岡八幡神社例大祭のようすの写真パネル
「はじめての土偶 縄文人の暮らし」原画展 [川田 強]	11月8日～24日	『はじめての土偶』挿絵、浦尻貝塚縄文の丘公園内制作物の原画など



南相馬味めぐり 春編2025



修復された木造聖観音菩薩立像



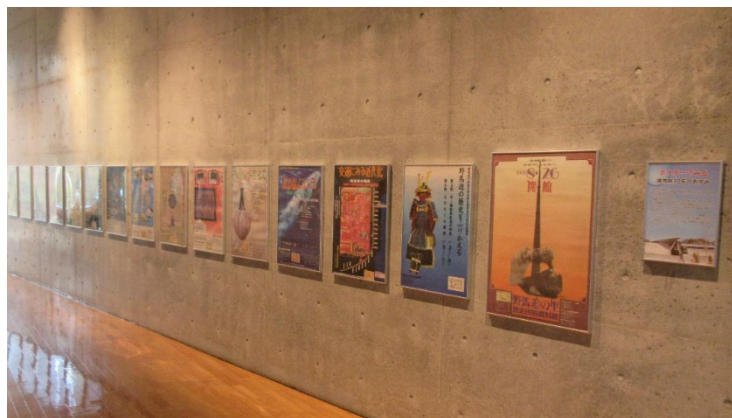
甲冑（朱漆塗伊予札紺糸威二枚胴具足、畳胴）

Ⅳ 令和7年度事業実施概要

テーマ〔担当学芸員〕	展示期間	資料名
あずきのチカラ 冬至と正月の食べもの〔川崎 悠〕	令和7年11月14日～ 令和8年1月27日	郷土料理レプリカ（冬至カボチャ、アカアカ餅、あんこ餅）
新属・新種化石 オーハニエラ・タイロフォリア〔仲川邦広〕	令和7年12月26日～ 令和8年4月19日	オーハニエラ・タイロフォリア（ホロタイプ標本、エピタイプ標本）
相馬地方の焼き物〔堀 耕平（文化財係）〕	令和8年1月6日～	野馬追人形、駒図陽刻花瓶、筒書き駒図徳利、灰釉駒図徳利
南相馬味めぐり めぐる春、今年もみいつけた 春の食卓編2026〔川崎 悠〕	1月28日～3月28日	郷土料理レプリカ（タケノコご飯、山菜の天ぷら、コゴミの胡麻和え、ワラビのおひたし、ゼンマイの油炒め、ふきのとう味噌）
南相馬味めぐり 春の食卓編2026〔川崎 悠〕	3月28日～5月2日	郷土料理レプリカ（タケノコご飯、アンコウのとも和え2種、コゴミの胡麻和え、柏餅、ゼンマイの油炒め）
ポスターでみる博物館30年のあゆみ〔森 晃洋〕	令和7年12月6日～ 令和8年4月16日	企画展「記憶を紡ぐー南相馬市博物館30年」のポスター展示を継続



新属・新種化石 オーハニエラ・タイロフォリア



ポスターでみる博物館30年のあゆみ

（３）野外展示

館外に本市に関連する資料の展示を行った。

① 蒸気機関車



C50型蒸気機関車

〔期 間〕 平成11年（1999）8月26日から
現在地に常設展示

〔展示資料〕 標準旅客用機関車
C50型103号機、テンダー

〔資料内容〕 昭和5年（1930）3月に製造。
昭和20年（1945）11月から常磐線平機関区
に配備され、昭和45年（1970）4月に廃車
となったもの。

② 原町無線塔頭部

〔期 間〕 平成9年（1997）8月20日から現在地に常設展示

〔展示資料〕 磐城無線電信局原町送信所主塔頭部

〔資料内容〕 大正10年（1921）7月に開局した対米無線局・磐城無線電信局原町送信所の主塔頭部。副柱へワイヤーを張って巨大アンテナを形成するための滑車が付属する。

高さ201メートルの鉄筋コンクリート塔は、開局当時“東洋一”と称され、大正12年（1923）の関東大震災の惨状をサンフランシスコに打電し、世界各国からの援助を導いた。昭和57年（1982）に解体され、頭部のみ現存する。



磐城無線電信局原町送信所主塔頭部

③ パンタネリウム

〔期 間〕 平成30年（2018）3月29日～

〔展示資料〕 パンタネリウム

〔資料内容〕 平成29年度福島県事業「アートによる新生ふくしま交流事業」の一環として、アーティスト君平氏が制作した鉄製オブジェ。鹿島区の小山田層（中生代白亜紀初期）の地層から産出する微化石「パンタネリウム」を表現した作品。



パンタネリウム

（４）おだか交流センター展示

現在のおだか交流センターの場所にあった、明治4年（1871）創業の呉服店「綿屋」に関連する資料を展示。

〔担当学芸員〕 佐藤義典

〔期 間〕 令和2年（2020）12月16日～

〔展示資料〕 大正8年（1919）福島県小高町案内図、綿屋呉服店写真、綿屋呉服店看板、綿屋呉服店包装紙、綿屋創業88周年記念手拭い



おだか交流センター展示（「綿屋」に関連する資料）

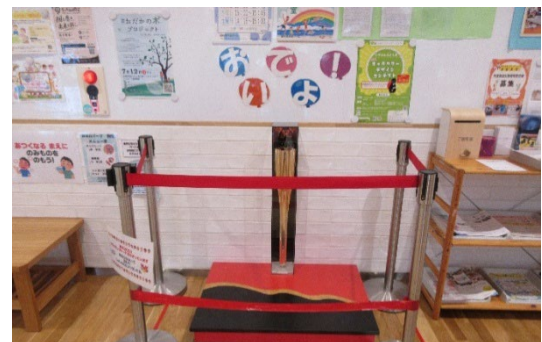
（５）小高区子どもの遊び場「NIKOパーク」展示

本市が、復興五輪である東京2020大会に積極的に参画した記録として広く市民に周知するための展示を行った。

〔担当学芸員〕 森 晃洋

〔期 間〕 令和5年2月3日～

〔展示資料〕 東京オリンピック2020聖火リレートーチ



「NIKOパーク」展示（東京オリンピック2020聖火リレートーチ）

3. 資料収集管理事業

(1) 収蔵資料数（令和8年3月31日現在）

区 分		実 物	標本	模型等	寄 託		合 計	令和7年度増減分 内訳			
					実物	標本・ 模型等		寄贈	購入	寄託	返却
人文科学資料	美 術	768			7683		771	1		1	1
	考 古	7,707			2,477		10,184				
	民 俗	7,459			259		7,718	102	2		
	歴 史	11,866		53	5,249	7	17,175	42	2	4	
	図 書	12,138					12,138	177			
	写 真	1,330					1,330				
	その他	548					548				
	計	41,816		53	7,988	7	49,864	321	4	5	1
自然科学資料	動 物	663	685	13	43		1,404	4	6		
	植 物	70	54	2			126				
	地 学	11			9	7	27				
	理化学										
	天 文										
	図 書	435					435	7	1		
	写 真	116					116				
	その他	63		1			64				
		計	1,358	739	16	52	7	2,172	13	7	
	合 計	43,174	739	69	8,040	14	52,036	335	11	5	1

(2) 新規購入資料（図書を除く）

分野	分 類	品 名	点数
民 俗	郷土料理レプリカ	たくあん	1
民 俗	郷土料理レプリカ	白菜の漬物	1
自 然	剥製	モズ（ヒナ）、ソウシチョウ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ハシボソガラス、テン（アカネズミ捕食）	6
歴 史	古文書	池田家文書一括	1
歴 史	絵図	相馬野駒追大絵図	1
合 計			10

(3) 資料の貸出し

① 博物館資料

資料名	点数	貸出先	貸出期間	展覧会・イベント名
鉄錆地十四間二方白星兜、鉄錆地椎形兜、鉄錆地陰雪輪紋象嵌鎧、下り駒の指旗（現代製）、三社神旗（現代製）	8	U. S. Equine, Inc	令和6年 8月22日～ 令和8年 3月25日	ケンタッキー・ホースパークで開催する日本馬事文化展示会「馬の心」における展示資料として

資料名	点数	貸出先	貸出期間	展覧会・イベント名
栃窪層産植物化石（パラセコイア、ニルソニア・シャンパージェンシス、ペロウデア・ニッポニカ、キムリエラ・デンシフォリア〔2点〕、オーハニエラ・タイロフォリア〔2点〕、ニルソニオクレイダス・タイラエ、ニルソニオクレイダス・ジャポニカス、エンセファラータイテス・ニッポネンシス）	10	茨城県自然博物館	令和7年 5月27日～ 9月30日	同館企画展「恐竜とともに生きた生物たちーぼくらは脇役じゃないー」（7/15～9/15）の展示資料として
クルミかご（鷲内遺跡）	1	東北歴史博物館、京都文化博物館、群馬県立歴史博物館	6月13日～ 令和8年 3月27日	特別展「世界遺産 縄文」の展示資料として
特攻機九九式双発軽爆撃機胴体	1	花巻市博物館	6月20日～ 8月29日	テーマ展「戦後80年 戦争と花巻」の展示資料として
日本無線電信株式会社小山送信所落成記念絵はがき、原町無線電信送信所案内、無線塔破片	3	「原町無線塔」研究会	11月29日～ 3月25日	『「原町無線塔」文化祭ーもう一つの物語」（10/11～13）の展示資料として
青海苔の酢の物レプリカ、生青海苔の天ぷらレプリカ、塩引き（ドブ漬け）レプリカ	3	福島県立博物館	12月4日～ 令和8年 3月28日	令和7年度ポイント展「ふくしまの食文化」における展示資料として
DVD（男山八幡神社のお浜下り、南相馬・正月の行事ー行事を支える人々ー、日吉神社の浜下り、鶏足神社の浜下り）	4	南相馬市社会福祉協議会	令和8年 1月10日～ 16日	鹿島の思い出を語る懇談会（1/15開催）で上映するため
合 計	30			

② 写真資料

貸出資料	点数	貸出先	貸出日	貸出事由
桃内駅の開業、天野秀延肖像、原ノ町駅電化完成記念	3	J R 原ノ町駅	令和7年 4月18日	4/26開催の「常磐線旧線隧道探検ツアー」の配布資料に掲載のため
原町無線塔（昭和初期）	1	相馬市労働基準協会	5月25日	福島県労働基準協会主催の安全衛生大会（10/3、於：相馬市民会館）用パンフレット表紙に使用のため
近代の相馬野馬追写真（お行列、神旗争奪戦）	2	（一社）相馬野馬追	8月4日	テレビユー福島発行イベント情報誌「みんなで！福島」特集ページ「継承と変革 福島の祭り今昔」の相馬野馬追記事作成に使用するため
桜井古墳空撮写真	1	（株）進和クリエイティブ 大室仁志	8月21日	『ゆめだより』10月号の市町村紹介企画「ふるさとの宝箱」に掲載予定
富田高慶坐像	1	（株）致知出版社	8月31日	北康利著『二宮尊徳 世界に誇るべき日本の偉人（仮）』に掲載のため
昭和40年代前半 栄町一丁目の写真	1	福島民友新聞社	8月31日	「昭和100年～福島タイムトリップ～」に掲載のため
相馬野馬追図屏風〔右隻・左隻〕、奥州相馬妙見祭 其二 野馬追之図、磐城国相馬三社祭礼馳馬之図	4	（有）アームズ 斉藤和記	9月6日	相馬野馬追のドキュメンタリー映画「神の旗」制作にかかるインサート用画像として使用のため

貸出資料	点数	貸出先	貸出日	貸出事由
「相馬家歴代藩主像」のうち「相馬大膳大弼盛胤」「相馬長門守義胤号外天」	2	(株)MaK Office	令和7年 9月7日	再版する『戦国100人』第5号に掲載のため
原町飛行場俯瞰図1点、陸軍特別攻撃隊関係2点、銃後の生活5点、原町飛行場関係1点、無線塔関係4点	13	(株)福島映像企画	9月12日	福島県遺族会が進める「終戦80周年記念事業「平和の語り部」活動」の動画制作のため
掛軸（送羽根田永清帰郷、因幡守季胤漢詩）	1	相馬郷土研究会	9月21日	相馬郷土研究会機関紙第38号に掲載するため
原町無線塔頂部、原町無線塔写真（昭和初期、昭和53年頃）	3	朝日新聞南相馬支局 大久保泰	10月7日	原町無線塔文化祭（10/11～13）の記事掲載のため
原町無線塔写真（大正10年頃）	1	毎日新聞社記者 田倉直彦	10月11日	原町無線塔文化祭（10/11～13）の記事掲載のため
大悲山文書のうち、「相馬朝胤着到状」「吉良貞家・畠山国氏連署披露状」「吉良貞家書下」	3	世田谷区史編さん	10月31日	『世田谷区史 中世編』に掲載のため
特攻機九九式双発軽爆撃機胴体	1	花巻市博物館	10月31日	テーマ展「戦後80年 戦争と花巻」図録掲載のため
常設展示室神旗争奪戦ジオラマ、相馬野馬追図屏風、黒漆塗五枚胴具足	3	(株)アルパ	12月9日	『47都道府県 行かなきゃ損する!? 美術館・博物館・図書館（仮）』に掲載のため
「諸国名所百景 奥州相馬妙見祭馬追の図」「奥州相馬妙見祭（3枚一組）」	4	集英社 新書編集部	12月10日	『馬の惑星 相馬野馬追編（仮題）』（星野博美著）に掲載のため
原町送信所電弧発振器、原町送信所遠景（昭和初期）	2	福島民友新聞社	12月23日	原町無線塔に関する記事掲載のため
合 計	46			

4. 調査研究事業

（１）『研究紀要』の刊行

学芸員等の調査研究成果を掲載する学術雑誌の刊行。令和7年度末（令和8年〔2026〕3月31日付）に200部印刷製本。また、令和8年3月に電子版として当館公式ウェブサイトで公開した。

■『研究紀要 第16号』本文55ページ

- ・寄稿「南相馬の紙芝居」 二本松文雄
- ・「南相馬市博物館の食文化への取り組み
ー「食文化ミュージアム」と「100年フード」の事例ー」 川崎 悠
- ・「相双地方の手漉き和紙業を考えるために」 佐藤義典
- ・「中村藩の知行宛行状に関する一考察」 森 晃洋

（２）調査研究テーマ（分野別）と内容

① 野馬追と観光（新規）〔担当学芸員：二上文彦〕

江戸時代には中村藩主相馬家の年中行事として開催され、明治時代以降には神社の神事として継承されてきた野馬追は、伝統行事でありながらも“見もの”として人気があり、江戸時代から多くの見物人たちが当地方を訪れた。それは明治以降も続き、野馬追は相馬名物としてブランド化した。この「観光資源」としての側面は、現代野馬追を継続する推進力のひとつとなっていることも事実である。

江戸時代から続く野馬追の観光資源としての側面を、資料（絵図、古文書、古写真等）によっ

て調査し、野馬追がブランド化してきた歴史を明らかにすることを目的とした。本調査の一環で入手した幕末の「諸国御祭礼番付」により、当時の野馬追の知名度や、江戸時代後期の和算家・山口和の『道中日記』に見られる野馬追の描写を調査した。令和7年度企画展「野馬追トラベラーズ」にて発表した。

② 磐城無線電信局原町送信所の調査（継続）[担当学芸員：二上文彦]

高さ約200メートルのいわゆる原町無線塔は、大正時代の完成から数えて約60年、当地の市街にそびえていたことから、市民の心象風景となり、関東大震災での活躍と併せて地元で語り継がれている。しかし、無線局としての公・民による業務分担への変化に加え施設が広域だったことなどもあり、その実像や全体像は見えづらかった。

無線塔の再評価への足掛かりとして、磐城無線電信局原町送信所（原町無線塔）についての一次資料（建設、運用、解体等の歴史）および現存する遺物・痕跡（副柱アンカー、電弧発振器、発電機等）の確認を、外部研究者との共同で行い、成果は外部団体（「原町無線塔」研究会）との共同イベント（「原町無線塔」文化祭—もう一つの物語／会期：10月11～13日／会場：南相馬市民文化会館ゆめはっとギャラリー）で発表した。

③ 南相馬市の絶滅に瀕する野生生物生息地調査（継続）[担当学芸員：仲川邦広]

現地調査および地元有識者、外部団体（野鳥の会、虫の会、植物の会）、県自然保護課などへの情報照会により、市内の絶滅危惧種のリスト、分布、生息環境を調査した。

調査成果は、将来的に当館企画展や庁内連携による希少生物保全区域の策定に活用する予定である。

④ 南相馬市原町区に残存した半自然草地の植生（継続）[担当学芸員：仲川邦広]

野馬追を構成するひとつの要素として欠かせないのが、野馬たちが生活を送り野馬追の舞台ともなった野馬原である。江戸時代から近代にかけて存在した野馬原の大部分を構成する草地環境は現在ほぼ宅地等に造成され、その植生等について詳細を知ることは難しい。一方で、南相馬市原町区上町地区に残された湧水と水路を中心とした湿性草地は、前述の野馬原の趣を色濃く残す貴重な景観である。過去には大学機関による植生調査も行われたものの、標本資料は作成されておらず、標本にもとづいた研究は行われてこなかった。

本研究では標本収集をともなう現地調査および標本調査を実施し、伝統行事である野馬追が行われてきた野馬原の景観解明の一助とすることを目的とした。令和6年度『研究紀要 第15号』にて公開した。

⑤ 相双地方の焼き物調査（継続）[担当学芸員：堀 耕平（文化財係）]

近世に開窯した2つの焼き物である相馬駒焼と大堀相馬焼について、資料の寄贈、寄託があった。両窯の整理、調査により、その製品や技術等を紹介する展示につなげた。

相馬駒焼は奥州中村藩御用達の陶器窯であったが、平成23年（2011）、後継者がなく窯の火が途絶えた。今回、窯元からの依頼を受け製品、作品、文書資料などの寄贈・寄託を得たことから、整理と目録作成を行った。

大堀相馬焼は東北地方から関東地方の各窯の開窯や技術向上に影響を与えたとされる民窯であるが、東京電力福島第一原子力発電所事故のため、窯跡の多くが立ち入りを制限されている。今回、事故以前に窯跡から収集された陶片や窯道具などが寄贈されたことから、今後、各窯跡や製品内容の調査研究に向けて整理を行う。

⑥ 歴史資料の整理と調査（継続）[担当学芸員：森 晃洋]

資料の所蔵者の世代交代が進んでいることもあり、多くの資料が博物館に寄贈・寄託されているが、未整理のままとなっているものが多い。それらの資料の整理と調査を行った。

また、世代交代が進んだことにより、戦争体験者からの聞き取り調査はむずかしくなった現状

がある。ただ、寄贈・寄託される資料の多くは戦争関係であり、直接戦争を体験していなくとも戦争当時のことを伝え聞いていることがあるため、所蔵資料に関する問い合わせ等があった際に2人から話をうかがった。

⑦ 終戦80年に向けて戦争関係の調査（継続）[担当学芸員：森 晃洋]

令和7年（2025）は、終戦から80年の節目の年にあたることから、南相馬の戦争に関する企画展を開催するため資料調査を実施した。『原町市史』等の自治体史を活用して資料の選定を進め、さらに教科書の記述や構成を、展示構成やキャプションに活かして、企画展「近代の戦争と南相馬」を開催した。

⑧ 民俗資料の整理と調査（新規）[担当学芸員：佐藤義典]

現在、当館所蔵の民俗資料には、呼称や由来、使用用途が判然とせず、十分な記録がされていないものが複数存在する。南相馬市内で営まれてきた生活のあり方をより詳しく明らかにし、令和8年度以降の特別展示等にて成果を生かしていく。

なお、整理・調査活動には文化遺産サポーター制度の利用や市民ボランティアの動員を積極的に行い、作業の迅速化を図るとともに、民俗資料の意義について理解を広めた。

⑨ 南相馬市内の地域祭礼の変容（新規）[担当学芸員：佐藤義典]

近年の社会情勢や野馬追の日程変更などに伴い、多くの地域祭礼では従来通りの実施が難しくなっていると推測される。そのため、市史・町史編纂事業に伴う調査が実施されて以降、どのような変化があったのか調査した。また、各祭礼についてより詳細な情報が得られるようにした。

調査結果は祭礼の組織体系や信仰対象、開始時期などの一定の項目ごとにまとめ、研究紀要等での発信を行う。

⑩ 相双地域の郷土食調査（継続）[担当学芸員：川崎 悠]

相双地域に伝わる郷土食は、当地の歴史的・環境的背景のなかで育まれてきた文化であるが、食生活の多様化や住民の高齢化、東日本大震災に伴う集落の流出や解体、住民の避難等による離散、材料となる食材の放射能汚染等により、地域の食文化の継承が危惧される状況にある。郷土食の調査・記録・情報収集を継続的に行い、展示等により地域の人びとに関心を持ってもらい、継承へつなげる。

令和7年度は、エントランスホールで季節にあわせた郷土食のレプリカを展示し、企画展「記憶を紡ぐ—南相馬市博物館30年」では、これまでで最多となる45点のレプリカを展示した。また、漬け物は日常食や冬の保存食としても欠かせないことから、「たくあん」と「白菜漬け」のレプリカを新たに製作した。

（3）各学芸員の研究活動

① 投 稿

- ・岡田雅代/二上文彦「無線電信で横浜の関東大震災の被災情報を世界に届けた「原町無線塔」が果たした役割に関する一考察」（『日本地震工学会論文集』25巻6号）

② 他団体による委嘱等

二上文彦：福島県博物館連絡協議会理事、相双地区博物館連絡協議会会長、
相馬野馬追保存専門委員会委員、「原町無線塔」研究会代表

森 晃洋：福島県史学会相双地区幹事

仲川邦広：福島県植物研究会会計、福島県野生動植物保護アドバイザー、
環境省希少野生動植物種保存推進員

佐藤義典：福島県民俗学会幹事

茂木千恵美：浜通りのお浜下り調査員

5. 教育普及事業

(1) 講座・体験学習

学芸員および外部講師を招いた講座・体験学習等の実施。

① 講座 実施回数：11回 参加人数：331人

開催日	内容（タイトル）	講師名〔担当学芸員〕	参加人数
令和7年 5月5日	蓄音機コンサート	佐藤晴美氏・二本松文雄氏（蓄音機愛好家） 〔佐藤義典〕	40
5月17日	史料をよむ「戦国時代の相馬一族と南奥世界①」	岡田清一氏（東北福祉大学名誉教授） 〔森 晃洋〕	35
6月7日	野馬追の精神と藩政への影響について	二上裕嗣氏（元福島県立医科大学非常勤講師） 〔二上文彦〕	34
7月12日	史料をよむ「戦国時代の相馬一族と南奥世界②」	岡田清一氏（東北福祉大学名誉教授） 〔森 晃洋〕	35
7月26日	ふくしまの森林文化講座ー竹細工ー	福島県森林計画課派遣講師〔佐藤義典〕	11
9月14日	史料をよむ「戦国時代の相馬一族と南奥世界③」	岡田清一氏（東北福祉大学名誉教授） 〔森 晃洋〕	36
11月3日	蓄音機コンサート	佐藤晴美氏・二本松文雄氏（蓄音機愛好家） 〔佐藤義典〕	12
11月15日	史料をよむ「戦国時代の相馬一族と南奥世界④」	岡田清一氏（東北福祉大学名誉教授） 〔森 晃洋〕	31
11月29日	南相馬のことばー方言学の視点からー	小林初夫氏（奥羽大学図書館長） 〔佐藤義典〕	24
令和8年 1月10日	史料をよむ「戦国時代の相馬一族と南奥世界⑤」	岡田清一氏（東北福祉大学名誉教授） 〔森 晃洋〕	34
3月7日	史料をよむ「戦国時代の相馬一族と南奥世界⑥」	岡田清一氏（東北福祉大学名誉教授） 〔森 晃洋〕	39
合 計			331

② 体験学習 実施回数：16回 参加人数：352人

開催日	内容（タイトル）	講師名〔担当学芸員〕	参加人数
令和7年 4月27日	東ヶ丘公園の植物を観察しよう	仲川邦広学芸員	15
5月4日	春の野鳥を観察しよう（浦尻貝塚周辺の野鳥）	増渕翔太氏（福島市小鳥の森レンジャー） 菊地一成氏（日本野鳥の会南相馬） 〔仲川邦広〕	10
5月5日	香りの宝石せっけんを作ろう	小林香代子氏（ライブラ香りの学校・福島校） 〔仲川邦広〕	17
6月7日	化石を楽しもう①ー化石さがし	平宗雄氏（博物館収集展示委員）、八巻安夫氏（相馬中村層群研究会） 〔仲川邦広〕	17
6月8日	化石を楽しもう①ー化石標本作り		17
6月22日	初夏のキノコを観察しよう！	本多 隆氏・橋本和昭氏・斎藤諒次氏（福島きのこの会）ほか 〔仲川邦広〕	20
8月3日	東ヶ丘公園で昆虫観察&標本を作ろう	平澤 桂氏・三田村敏正氏・小吹歩生氏（福島虫の会） 〔仲川邦広〕	22
8月16日	化石のレプリカを作ろう！	八巻安夫氏（相馬中村層群研究会）、文化遺産サポーター 〔仲川邦広〕	82
8月17日	化石のレプリカを作ろう！		77
8月17日	本物にさわって勾玉を作ろう①	森 幸彦・相澤桃子学芸員（文化財係）	15

Ⅳ 令和7年度事業実施概要

開催日	内容（タイトル）	講師名〔担当学芸員〕	参加人数
令和7年 10月19日	南相馬のこばーかるた作り編一	小林初夫氏（奥羽大学図書館長） 〔佐藤義典〕	4
11月8日	化石を楽しもう②ー化石さがし	平宗雄氏（博物館収集展示委員）、八巻安夫氏（相馬中村層群研究会）〔仲川邦広〕	18
11月9日	化石を楽しもう②ー化石標本作り		8
12月7日	野鳥を観察しよう（浦尻貝塚周辺の野鳥）	増渕翔太氏（福島市小島の森レンジャー）、菊地一成氏（日本野鳥の会南相馬）、仲川邦広学芸員	8
12月21日	正月飾り作り	高田求幸氏（南相馬市博物館資料調査協力員）〔佐藤義典〕	14
令和8年 3月22日	本物にさわって勾玉を作ろう②	森 幸彦学芸員（文化財係）	8
合 計			352



初夏のキノコを観察しよう！（令和7年6月22日）



本物にさわって勾玉を作ろう②（令和8年3月22日）

③ その他（講演会、ツアー） 実施回数：1回 参加人数：22人

開催日	内容（タイトル）	講師名〔場 所〕	参加人数
令和7年 10月11日	史跡巡りバスツアー	森 幸彦学芸員・花里亜利沙文化財主事（文化財係）	22

（2）各機関との連携

① 学校等との連携

ア．学校等の見学 実施回数：15回 参加人数：生徒等614人 引率者41人（合計655人）

来館日	学校名	学年	参加人数		内 容〔担当学芸員〕
			生徒等	引率者	
令和7年 6月17日	原町第三小学校	6	62	3	総合的な学習の時間
6月19日	鹿島小学校	3～6	24	2	総合的な学習の時間「野馬追」 〔二上文彦・佐藤義典〕
6月25日	鹿島小学校	6	74	3	社会科（日本の歴史「縄文のむらから古墳のくにへ」）〔荒 淑人（文化財係）・佐藤義典〕
7月10日	上真野小学校	6	5	1	総合的な学習の時間「野馬追」 〔二上文彦・佐藤義典〕
9月3日	原町第一中学校	1	88	6	総合的な学習の時間「地域についての学習」
9月17日	石神中学校	1	57	4	総合学習における調べ学習〔森 晃洋・佐藤義典〕
10月16日	石神第二小学校	4	60	3	報徳仕法（常設展および測量道具見学）〔森 晃洋〕

来館日	学校名	学年	参加人数		内 容 [担当学芸員]
			生徒等	引率者	
令和7年 12月12日	浪江町立なみえ 創成中学校	4	5	1	報徳仕法（報徳講座＋常設展見学）[森 晃洋]
令和8年 2月18日	高平小学校	3	18	2	市の移り変わり/昔の道具 [森 晃洋・佐藤義典]
2月19日	鹿島小学校	3	72	4	市の移り変わり/昔の道具 [森 晃洋・佐藤義典]
2月20日	原町第三小学校	3	60	3	市の移り変わり/昔の道具 [森 晃洋・佐藤義典]
2月25日	石神第一小学校	3	7	2	市の移り変わり/昔の道具 [森 晃洋・佐藤義典]
2月26日	小高小学校	3	23	2	昔の道具 [佐藤義典・文化遺産サポーター]
3月3日	大甕小学校	3	19	2	市の移り変わり/昔の道具 [森 晃洋・佐藤義典]
3月11日	原町第二小学校	3	40	3	市の移り変わり/昔の道具 [佐藤義典]
合 計			614	41	

イ. 出前講座（学校関係） 実施回数：27回 参加人数：児童・生徒811人 教師98人（合計909人）

実施日	学校名	学年	参加人数		内 容 [担当学芸員]
			生徒等	教師	
令和7年 6月19日	鹿島小学校	3～6	28	2	総合的な探究の時間「漁業について」 [仲川邦広]
6月24日	石神第一小学校	2	11	1	野馬追のいまむかし（観光交流課「馬との触れ合い学習」）[佐藤義典]
6月28日	相馬市立八幡小学校	4～6	42	29	野馬追のいまむかし（PTA教育講演会） [二上文彦]
6月30日	福島県立相馬支援学校 小学部	3・4	8	3	野馬追のいまむかし [佐藤義典]
7月3日	原町第一小学校	6	47	2	総合的な学習の時間「野馬追のいまむかし（観光交流課「馬との触れ合い学習」）」[二上文彦]
7月3日	原町第三小学校	6	64	7	地域学校協働事業「野馬追のいまむかし」 [佐藤義典]
7月3日	原町第三中学校	1	2	1	総合的な学習の時間「化石の宝庫南相馬」 [仲川邦広]
7月4日	小高小学校	3	22	3	総合的な学習の時間 自然観察「小高川の生き物」 （南鳩原川の水生生物）[仲川邦広]
7月9日	福島県立相馬支援学校 中学部	3	6	2	野馬追のいまむかし [佐藤義典]
7月11日	小高小学校	3	22	3	総合学習 自然観察「小高川の生き物」（村上海岸の海岸植物）[仲川邦広]
9月18日	原町第三中学校	1・2	4	1	総合的な学習の時間「南相馬市の生き物」 [仲川邦広]
9月25日	上真野小学校	6	5	1	ふるさとの歴史（塩の道）[森 晃洋]
9月26日	鹿島小学校	1	58	4	まちの移り変わり/野馬追のいまむかし [二上文彦・佐藤義典]
10月9日	石神第二小学校	4	60	3	報徳仕法（講座）[森 晃洋]
10月12日	石神第二小学校	4	60	3	報徳仕法（バス 萱浜用水路）[森 晃洋]
10月21日	上真野小学校	6	5	2	理科「大地のつくり」[仲川邦広]

Ⅳ 令和7年度事業実施概要

実施日	学校名	学年	参加人数		内 容 [担当学芸員]
			生徒等	教師	
令和7年 11月17日	石神第二小学校	2	46	4	総合的な学習の時間「野馬追のいまむかし（観光交流課「馬との触れ合い学習）」 [堀 耕平（文化財係）]
11月19日	原町第二小学校	4	28	2	報徳仕法（講座）[森 晃洋]
11月19日	原町第三小学校	6	32	4	化石採集（6年「大地のつくり」）[仲川邦広]
11月20日	原町第三小学校	6	29	3	化石採集（6年「大地のつくり」）[仲川邦広]
12月3日	原町第二小学校	4	28	3	報徳仕法（バス 萱浜用水路）[森 晃洋]
12月3日	鹿島小学校	3	72	3	総合的な学習の時間「野馬追のいまむかし（観光交流課「馬との触れ合い学習）」[佐藤義典]
12月5日	石神中学校	1	58	3	総合的な学習の時間「野馬追のいまむかし（観光交流課「馬との触れ合い学習）」[堀 耕平（文化財係）]
12月16日	大甕小学校	4	18	3	報徳仕法（講座）[森 晃洋]
令和8年 1月23日	上真野小学校	6	5	1	原町の移り変わり（飛行場跡～無線塔跡） [森 晃洋]
2月17日	原町第二小学校	3	39	3	野馬追のいまむかし [佐藤義典]
3月5日	福島県立相馬支援学校 高学部	1	12	2	野馬追のいまむかし [佐藤義典]
合 計			811	98	

ウ. 中学生職場体験 実施回数：3回 参加人数：5人 [担当学芸員 全員]

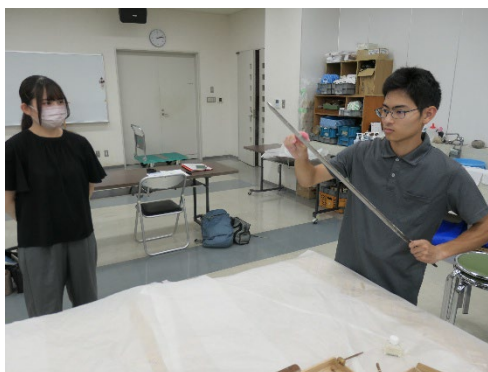
実施期間	学校名	学年	人数
令和7年 9月3～4日	石神中学校	2	3
9月18～19日	原町第二中学校	2	1
9月24～25日	原町第三中学校	2	1

エ. 博物館実習 実施回数：2回 参加人数：2人 [担当学芸員 全員]

実施期間	大学名	学部学科	学年	人数
令和7年 8月19～24日	札幌市立大学	デザイン学部人間空間コース	4	1
8月19～24日	福島大学	食農学類	3	1



中学生職場体験



博物館実習

オ. 大学関係来館者：1回 参加人数：6人 [担当学芸員 全員]

実施期間	大学名	見学内容	学年	人数
令和7年 7月6日	福島大学国際交流センター	相馬野馬追の文化学習	—	6

カ. 資料貸出セット：11回 [担当学芸員 仲川邦広]

貸出期間	学校名	学年	資料セット	内 容
令和7年 5月8～9日	公立双葉准看護学院	1	縄文-弥生時代	
5月22～23日	公立双葉准看護学院	1	古墳-平安時代	
6月19～20日	原町第二小学校	1	縄文-弥生時代	総合
6月19～20日	原町第二小学校	1	貝塚から出たもの	総合
6月19～20日	原町第二小学校	1	古墳-平安時代	総合
7月3日	原町第二中学校		野馬追	
7月3日	原町第一小学校	6	野馬追	総合
7月17日	小島田サロン	—	縄文-弥生時代	
10月28日～ 11月8日	鹿島小学校	3～6	野馬追	総合
11月30日～ 12月7日	小高小学校	3	野馬追	総合
令和8年 2月26日	高平小学校	3	古墳-平安時代	生涯学習センター主催の3世代交流事業

② 生涯学習関係機関等との連携

講師派遣（出前講座等） 実施回数：30回 参加人数：1,308人

実施日	主 催	参加人数	内 容 [担当学芸員・担当者]
令和7年 4月5日	相馬野馬追紫会	30	なぜ原町は野馬追の里になった…？ [二上文彦]
4月8日	南相馬市役所総務課	29	新規採用学校栄養職員研修「知っておきたい南相馬の歴史」、常設展示案内 [森 晃洋・仲川邦広]
4月30日	南相馬市教育委員会学校教育課	13	令和7年度小・中学校初任者および新規採用養護教諭研修地区別研修B「知っておきたい南相馬の歴史」、常設展示案内 [森 晃洋・仲川邦広]
6月7日	飯館村生涯学習課	50	飯館YOITOKO発見！ツアー [佐藤義典]
6月21日	原町生涯学習センター	37	こども探検隊事業 親子自然科学体験事業 第1回 ほたるの観察会 [仲川邦広]
7月4日	小高放課後子ども教室	31	博物館の見学およびワークショップ「化石レプリカ作り」[仲川邦広]
7月6日	フロップル（もとまつりまちづくりラボ）	75	「ひまわり」をテーマとしたワークショップ [仲川邦広]
7月18日	上太田こびっとサロン	15	野馬追のいまむかし [佐藤義典]
7月20日	南相馬観光協会	33	プチみなみそうマルシェ「相馬野馬追セミナー」 [二上文彦]
7月23日	南相馬市教育研究会地域学習研究部	12	川の生き物の観察 [仲川邦広]
8月5日	オペレーション・ブレッシング・ジャパン	18	川の生き物の観察 [仲川邦広]

Ⅳ 令和7年度事業実施概要

実施日	主 催	参加人数	内 容〔担当学芸員・担当者〕
令和7年 9月6日	上太田地域資源保全隊	10	ビオトープ内の生物・植物調査のためご担当学芸員派遣依頼〔仲川邦広〕
9月21日	南相馬観光協会	7	プチみなみそうマルシェ「相馬野馬追セミナー」〔二上文彦〕
9月26日	ひばり女性学級	10	報徳移動教室「報徳仕法ゆかりの地めぐり」〔森 晃洋〕
10月4日	相馬市子ども科学フェスティバル実行委員会	300	化石のレプリカを作ろう！〔二上文彦・仲川邦広〕
10月8日	太田生涯学習センター	13	報徳仕法〔森 晃洋〕
10月17日	ひばり生涯学習センター	22	樹木天然記念物巡り〔仲川邦広〕
10月22日	原町リトリート	5	秋の課外学習「化石発掘体験会」〔仲川邦広〕
10月24日	北萱浜和む会	15	世界をつないだ白亜の塔ー原町無線塔〔二上文彦〕
10月25・ 26日	Out of KidZania in ふくしま 相双2025 運営事務局	122	化石・土器のフロッタージュしおり作り〔二上文彦・森 晃洋・大谷菜穂・羽田千尋〕
10月26日	益田地域資源保全隊	60	自然観察指導（排水路の生き物）〔仲川邦広〕
11月5日	南相馬市こども家庭課	88	化石レプリカづくり（「こどもまんなかアクション」リレーシンポジウム IN 南相馬 ワークショップコーナー）〔二上文彦・仲川邦広〕
11月2日	特定NPOみんな共和国	38	化石を見つけちゃおう！〔仲川邦広〕
11月5日	ひがし生涯学習センター	14	しらゆり学級移動研修ー江戸時代の野馬追をめぐる〔二上文彦〕
11月10日	石神生涯学習センター	12	石神報徳講座「興復社設立願書にみる報徳仕法の継続」〔森 晃洋〕
11月18日	鹿島生涯学習センター	19	報徳仕法バス〔森 晃洋〕
11月30日	小高まちづくり委員会	40	自然体験〔仲川邦広〕
12月7日	フロップル	43	かえっこ@ゆめはっと テーマ「クリスマスツリー」〔仲川邦広〕
令和8年 2月3日	昆虫の聖地協議会	14	南相馬市博物館における過去の昆虫観察や標本作り体験の紹介〔仲川邦広〕
2月17日	文化学園大学 造形学部 デザイン・造形学科 染織研究室	11	野馬追のいまむかし〔二上文彦〕
3月1日	南相馬観光協会	122	みなみそうマルシェ「土器フロッタージュ」〔花里亜利沙（文化財係）・大谷菜穂〕
合 計		1308	

（３）キッズミュージアム

館内に幼児・児童が参加する体験プログラムを複数設置した、子ども向けワークショップ。

実施回数：1回 参加人数：33人 〔担当学芸員：全員〕

実施日	参加人数		体験プログラム
	幼児・児童	保護者	
令和7年 11月23日	14	19	うらこちゃんづくり、化石ピンバッジづくり、まゆだまあそび、甲冑着付け体験、ミニ指旗づくり、紐より・機織り体験、野馬追絵図スタンプなど
合計	33		

6. 恐竜化石探索調査・教育普及事業

市内に分布するジュラ紀後期～白亜紀初期の相馬中村層群のうち、恐竜足跡化石をはじめ、植物食恐竜と関連性が深いとされるベネチテス類などの植物化石が多産する栃窪層を中心に、市内外の地質学・古生物学の専門家による調査を行い、恐竜化石産出の可能性を探る。あわせて、市内の地質および古生物に対する理解を深めるため、講演会等を開催した。

(1) 現地調査

地質学・古生物学の専門家を招き、令和8年度の発掘調査を見据え、栃窪層を中心とした発掘の適地選定のための現地調査を行った。

(2) 教育普及

恐竜時代への理解を深める講演会と体験イベントを実施した。

講演会は恐竜研究の第一人者である小林快次氏（北海道大学教授）と吉田純輝氏（福島県立博物館学芸員）によるアジアおよび浜通り地方の恐竜化石についての講話をいただいたほか、講演会場では広野町の協力により、同町所蔵のジュラ紀の恐竜化石標本を展示した。

また、セデッテかしまと道の駅南相馬で、市の地質・化石について理解を深め、認知度を高めるための体験イベントを開催した（触れる化石の展示、化石フロッタージュ、化石レプリカ作り、プラ板ピンバッジ作り、トートバッグ作り等）。

実施回数：5回 参加人数：1,516人

開催日	内容（タイトル）	講師名〔担当学芸員〕	参加人数
令和7年 9月13日	特設ブース『ジュラシックワールド南相馬 化石ふれあい体験』1日目	仲川邦広学芸員その他職員、文化遺産サポーター	481
9月14日	特設ブース『ジュラシックワールド南相馬 化石ふれあい体験』2日目	*会場／セデッテかしま（常磐自動車道SA）	483
9月20日	ジュラシックワールド南相馬を体験しよう！1日目	仲川邦広学芸員その他職員、文化遺産サポーター	110
9月21日	ジュラシックワールド南相馬を体験しよう！2日目	*会場／道の駅南相馬ホール	140
令和8年 1月17日	特別講演会「アジアの恐竜研究最前線／福島県浜通りの恐竜化石」	小林快次氏（北海道大学教授）、吉田純輝氏（福島県立博物館副主任学芸員） *会場／鹿島生涯学習センター（さくらホール）	302
合 計			1516



『ジュラシックワールド南相馬 化石ふれあい体験』（セデッテかしま特設ブース）



特別講演会「アジアの恐竜研究最前線／福島県浜通りの恐竜化石」

(3) 展 示

恐竜化石特設展示

※特別講演会「アジアの恐竜研究最前線/福島県浜通りの恐竜化石」関連企画

[担当学芸員] 仲川邦広主任学芸員

[期 間] 令和8年1月17日（鹿島生涯学習センター「さくらホール」） 1日間

令和8年1月20日～2月19日（南相馬市博物館 展示ホール） 22日間

[内 容] 特別講演会「アジアの恐竜研究最前線/福島県浜通りの恐竜化石」にあわせて、南相馬市産の恐竜足跡化石にくわえ、広野町所蔵の実物恐竜化石を借用し展示したもの。実物化石のほか、恐竜関連の図書の展示も行った。

[協 力] 広野町、三菱倉庫株式会社

[展示資料]

No.	名 称	点数	産 地	時 代	所蔵等
1	恐竜足跡化石 (モールド・キャスト)	2	南相馬市原町区	ジュラ紀後期	当 館
2	アロサウルス（大腿骨） 実物化石	1	アメリカ	ジュラ紀後期	広野町
3	カマラサウルス（左右脚部） 実物化石	2	アメリカ (ワイオミング州)	ジュラ紀後期	広野町
4	カマラサウルス（頭骨） 実物化石	1	アメリカ (ワイオミング州)	ジュラ紀後期	広野町
5	エドモントサウルス（ボーンベ ッド）実物化石	1	アメリカ	白亜紀後期	広野町
6	恐竜関連図書	約40			南相馬市立中央図書館



恐竜化石特設展示（当館 展示ホール）

7. その他の事業

(1) 博物館理解・活用促進のための無料開館

実施回数：7回 入館者数：850人

日 付（曜日）		入館者数
こどもの日	令和7年5月5日（日/祝）	234
国際博物館の日	5月18日（日）	93
福島県民の日	8月16日（土）	146
	8月17日（日）	129
敬老の日	9月15日（月/祝）	90
文化の日・東北文化の日	11月3日（月/祝）	98
成人の日	令和8年1月12日（月/祝）	60
合 計		850

(2) 博物館・その他機関との連携

① 福島県博物館連絡協議会（令和7年度の理事は当館）

令和7年6月13日 理事会 会場／福島県立博物館

7月16日 総会 会場／福島県立博物館

令和8年3月8日 研修会 会場／福島県立博物館

3月24日 研修会 会場／郡山市歴史情報博物館

3月25日 理事会 オンライン

② 相双地区博物館連絡協議会の再開（令和7年度の会長は当館長、事務局は当館）

同協議会は、相双地区の博物館およびこれに準ずる施設による相互の連携・協力を図る組織として設立され（平成13年度設立）、平成23年の東日本大震災震災以降活動が休止していたが、令和6年度、活動を再開した。

令和7年度は規約を一部改定し、震災後に設置された相双地区の博物館・博物館に準ずる施設（調査研究または展示の機能を有する組織を含む）へ加盟呼びかけを実施した。新たな加盟団体4団体を加えて9団体となり、情報交換を行った。

令和7年8月 規約の改定（書面会議）

10月 相双地区博物館連絡協議会への加盟確認について（書面会議）

10月 相双地区博物館連絡協議会への加盟について（書面通知）

令和8年2月24日 総会 会場／南相馬市博物館

地区名	加入博物館・準ずる施設（教育委員会）	備 考
相馬	駒ヶ嶺公民館分館	令和7年度新規加盟
	相馬市歴史資料収蔵館	旧：相馬市歴史民俗資料館
	南相馬市博物館	
双葉	浪江町教育委員会 生涯学習課	令和7年度新規加盟
	双葉町教育委員会	旧：双葉町歴史民俗資料館
	東日本大震災・原子力災害伝承館	令和7年度新規加盟
	とみおかアーカイブ・ミュージアム	旧：富岡町歴史民俗資料館
	檜葉町歴史資料館（大地とまちのタイムライン）	
	広野町文化交流施設（ひろの未来館）	令和7年度新規加盟

③ その他機関との連携

実施回数：2回 参加人数：142人

開催日	主 催	参加人数	内 容〔担当学芸員〕
令和7年 6月25日	NPO法人はらまちクラブ	22	南相馬ふるさと検定〔二上文彦〕
10月11～13日	「原町無線塔」研究会	120	「原町無線塔」文化祭 もう一つの物語 〔二上文彦〕
合 計		142	

(3) レファレンス対応

130件 ＊7. 情報発信 (4) ①記載分も含む

8. 情報発信

(1) 広 報

①「南相馬ミュージアム通信」

年3回、展示会や講座・体験学習などの情報を発信した。

Vol. 56 令和7年4月1日発行 10,500部

Vol. 57 8月1日発行 7,500部

※市内隣組回覧、市外避難世帯への発送停止に伴い3000部減

Vol. 58 令和8年12月1日発行 3,500部

※市内小・中学校への配布停止に伴い4,000部減



ミュージアム通信Vol. 56～58

② 展示会ポスター・リーフレット

配布先：福島県内外博物館等、福島県内教育委員会、相馬地方の各学校、公共施設、市内スーパー、市内外旅館・ホテル、首都圏旅行者 など

種 類	仕様・印刷数等
ポスター	企画展「野馬追トラベラーズ」 B2 300枚 企画展「近代の戦争と南相馬」 B2 300枚 企画展「記憶を紡ぐー南相馬市博物館30年」 B2 300枚
リーフレット	企画展「野馬追トラベラーズ」 A4 2,000枚 企画展「近代の戦争と南相馬」 A4 2,000枚 企画展「記憶を紡ぐー南相馬市博物館30年」 A4 2,000枚

(2) 南相馬市博物館ウェブサイト・SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）による発信

南相馬市公式ウェブサイト内の博物館サイトにて、展示や体験学習・講座などの催し物、来館案内などの各種情報、出版物の案内、学芸員による連載コラム（「ちょこっと☆みゅーじあむ」：2か月に1度）などを発信している。

また、北海道博物館が運営する「おうちミュージアム」に参加し、自宅等で本市の歴史、文化、自然を楽しく知って学べる取り組みとして「おうちで博物館」を配信している。

さらに、博物館公式SNS（令和2年5月運用開始。Facebook、X（旧Twitter）、YouTube）にて、相馬地方の歴史や自然、文化について紹介するとともに、当館の最新情報や展示・イベントのようすを発信し、市内外の感心層への発信の場として活用している。

当館サイト URL <https://www.city.minamisoma.lg.jp/portal/culture/museum/index.html>

Facebook URL <https://www.facebook.com/minamisomashihaku>

X [旧Twitter] URL <https://twitter.com/MinamisomaMuse>

YouTube URL <https://www.youtube.com/channel/UC3-Z-OfKZnOVMwZorWRrJRg>

① コラム「ちょこっと☆みゅーじあむ」

掲載年月日	テーマ	担当学芸員
令和7年4月1日	南相馬の金華山信仰	佐藤義典
5月1日	江戸時代の野馬追はどれくらい有名だった？	二上文彦
6月1日	変わりゆく養蚕道具一族（まぶし）ー	佐藤義典
8月1日	戦時下の『夏休の友』	森 晃洋
10月1日	南相馬の恐竜化石をさがせ！	仲川邦広
令和8年2月1日	薬師堂石仏の調査成果（前編）	藤木 海（文化財係）
3月1日	薬師堂石仏の調査成果（後編）	藤木 海（文化財係）

② おうちで博物館 ※以下、カッコ内は令和2年5月1日からの累積値

- ・制作コンテンツ数：0本（16本）

③ Facebook

- ・新規投稿数：94件（274件）
- ・新規フォロワー数：94人（1,220人）

④ X [旧Twitter]

- ・新規投稿数：123件（717件）
- ・新規フォロワー数：67人（1,276人）

⑤ YouTube

- ・新規配信動画数：0本（18本）
- ・チャンネル視聴回数：24,808回（112,459回）
- ・チャンネル新規登録者数：30人（562人）

(3) 『広報みなみそうま』コラム「おしえて博物館」

南相馬市広報紙『広報みなみそうま』における学芸員連載コラム。毎月掲載。

号 数	テーマ	担当学芸員
令和7年4月号	外来種と生き物の放流	仲川邦広
5月号	江戸時代の野馬追はどれくらい有名だった？	二上文彦
6月号	南相馬の金華山信仰	佐藤義典
7月号	海をわたる木の実	仲川邦広

Ⅳ 令和7年度事業実施概要

号 数	テーマ	担当学芸員
令和7年8月号	戦時下の『夏休の友』	森 晃洋
9月号	国指定史跡羽山横穴	花里亜利沙（文化財係）
10月号	恐竜化石を探せ！	仲川邦広
11月号	粃ようしの道具 アオとフリウチ	佐藤義典
12月号	納豆ねせの日	川崎 悠
令和8年1月号	相双の紙漉き	佐藤義典
2月号	“不吉な城、牛越城	森 晃洋
3月号	薬師堂石仏の発掘調査	藤木 海

（４）記事・放映

① 新聞・テレビ・ラジオ等のマスコミによる記事掲載・放映

掲載・放映年月日	メディア種別	〔番組名〕 記事表題・概要	担当学芸員
令和7年 4月26日掲載	福島民報	旅の視点から見た野馬追 南相馬市博物館 きょうから企画展	二上文彦
4月28日掲載	福島民友新聞	江戸時代の「野馬追」の世界は… 南相馬で企画展、絵巻物やはがき紹介	二上文彦
4月30日掲載	朝日新聞（福島版）	相馬野馬追 観光面の歴史紹介 南相馬市博物館で企画展	二上文彦
5月8日掲載	毎日新聞（福島版）	企画展「旅と観光」の視点で 江戸の心、捉えた「野馬追」 南相馬市博物館	二上文彦
5月9日放送	福島放送	〔シェア！〕 開幕まであと2週間 当時の旅人気分で見る野馬追	二上文彦
5月10日放送	福島テレビ	〔サタふく〕 100年経っても愛され続ける 県内の100年フードを紹介！（ベンケイ）	川崎 悠
5月14日掲載	河北新報	武者行列やばくちする民衆も「相馬野馬追」に合わせて歴史たどる企画展 福島・南相馬で開催	二上文彦
5月14日放送	福島テレビ	〔レポートプラス〕 明日への羅針盤 相馬野馬追に初陣を果たす女性 年齢制限が撤廃	二上文彦
5月20日放送	NHK福島	〔はまなかあいつTODAY〕 野馬追と観光 歴史を知って祭りを楽しむ	二上文彦
5月21日放送	テレビユー福島	〔ふくしまSHOW〕 相馬野馬追直前！南相馬市（カツオ）	川崎 悠
5月22日掲載	毎日新聞	女性の参加を制限してきた「相馬野馬追」 変革を迫ったものは	二上文彦
5月23日掲載	読売新聞	震災機に「文化広める」 父の甲冑で「人馬一体」	二上文彦
6月12日掲載	福島民報（相双版）	野馬追の起源、歴史学ぶ 南相馬 博物館で講座	二上文彦
6月15日掲載	福島民報（相双版）	化石探し太古を想像 南相馬 子どもら体験学習	仲川邦広
6月24日掲載	福島民報（相双版）	ホテルの舞に歓声 原町のピオトープ 親子連れら40人観察会	仲川邦広
7月2日掲載	福島民報（相双版）	南相馬ふるさと検定 3級6人、2級2人合格	二上文彦
7月8日掲載	福島民友新聞	南相馬の特攻機墜落、名誉回復へ「新説」 研究者「操縦卓越、不時着試みた」	森 晃洋
8月4日掲載	福島民報	南相馬の戦争伝える 市博物館 日記や写真など展示	森 晃洋

掲載・放映年月日	メディア種別	〔番組名〕 記事表題・概要	担当学芸員
令和7年 8月5日掲載	福島民友新聞（地域 ワイド）	戦争で翻弄された時代 日記、手紙、写真でたどる 南相馬で企画展	森 晃洋
8月9日掲載	毎日新聞（福島版）	激動の地域史、次代に 手紙や千人針に学ぶ 近代 日本の記録、物品 住民からの70点 南相馬市博物 館	森 晃洋
8月11日掲載	朝日新聞	南相馬の市博物館で「近代の戦争展」 戊辰戦争から 太平洋戦争まで	森 晃洋
8月14日放送	テレビユー福島	〔シェア！〕シリーズ戦後80年 特攻隊訓練ー原町 飛行場の記憶	森 晃洋
8月14日放送	福島中央テレビ	〔ゴジてれ Chu!〕終戦から80年 新たな説 南相馬 市に墜落した特攻機	森 晃洋
8月16日掲載	読売新聞（福島版）	兵士の手紙など70点展示 南相馬市博物館	森 晃洋
8月22日掲載	産経新聞	地域の発展願い誘致も、大戦末期は特攻隊の訓練基 地に 福島県南相馬市「原町飛行場跡」 戦後80年 たどる記憶	森 晃洋
8月26日掲載	河北新報	原町飛行場の飛行機格納庫（南相馬）若者特攻訓練 し沖縄へ	森 晃洋
9月8日掲載	福島民報（相双版）	恐竜時代の化石 多様な魅力紹介 南相馬市博物 館『ジュラシックワールド』開催へ	仲川邦広
9月15日掲載	福島民友新聞	実物の雰囲気感じて…墜落特攻機の破片展示 南 相馬市博物館」	森 晃洋
9月19日掲載	福島民報（相双版）	多彩な化石の魅力知る 南相馬で『ふれあい体験』	仲川邦広
10月8日掲載	朝日新聞（福島版）	原町見守った無線塔「もう一つの物語」、南相馬で11 日から文化祭 解体から43年 跡地や部品の行方 たどる	二上文彦
10月12日掲載	毎日新聞（福島版）	原町無線塔の歴史に迫る 南相馬で「文化祭」あす まで 関東大震災の一方米国に、廃止後再利用	二上文彦
10月13日放映	福島テレビ	〔テレポートプラス〕今はなき地域のシンボル『原町 無線塔』を後世に 解体から40年以上 展示を通し て思い出と共に振り返る」	二上文彦
10月27日掲載	福島民報（相双版）	相馬弁かるた作成 南相馬市博物館 体験学習で 継承	佐藤義典
11月11日掲載	福島民報	絵で見る縄文の生活 復元画家安芸早穂子さん 南相馬市博物館24日まで作品展	川田 強
12月3日掲載	福島民報（相双版）	南相馬の方言を解説 博物館講座	佐藤義典
12月6日放映	福島テレビ	〔サタふく〕後世に残したい福島の郷土料理	川崎 悠
12月6日掲載	福島民報	南相馬市博物館の歩み紹介 開館30年、きょうから 企画展	二上文彦
12月24日掲載	福島民報	新種の植物化石発見 南相馬のジュラ紀後期層 アマ研究家、平さん採集	仲川邦広
12月24日掲載	福島民友新聞	南相馬の地層で新種の植物化石 平さん発見、津波 で一時不明に	仲川邦広
12月27日掲載	福島民報	新種化石の展示始まる 栃窪層で発見植物 南相 馬、3月まで	仲川邦広
12月29日掲載	朝日新聞（福島版）	南相馬の植物化石 新種だった 津波で一時行方不 明 ジュラ紀生育時の姿、正確に 市博物館が特別 公開	仲川邦広
令和8年 1月3日放送	ラジオ福島	〔浜通り応援ラジオ番組「明日へ」〕企画展『記憶を 紡ぐ 南相馬市博物館30年』	二上文彦

Ⅳ 令和7年度事業実施概要

掲載・放映年月日	メディア種別	〔番組名〕 記事表題・概要	担当学芸員
令和8年 1月6日放映	福島放送	[シェア!] 馬と生きる南相馬市の馬事文化を学ぶ	二上文彦
1月9日掲載	福島民友新聞	南相馬市博物館の30年振り返る 3月22日まで企画展、郷土食レプリカも並ぶ	森 晃洋
1月11日掲載	福島民友新聞	「植物化石」特別公開 福島・南相馬市博物館、新属・新種を市内で発見	仲川邦広
1月17日放映	NHK福島	[はまなかあいづサタデー] “幻のような化石” 新種の植物化石を展示 南相馬市博物館	仲川邦広
1月20日掲載	福島民報（相双版）	恐竜のロマンに市民が浸る 北海道大総合博物館の小林快次教授講演会 骨の化石展示も 福島県南相馬市博物館	仲川邦広
1月26日掲載	福島民友新聞社	南相馬、実は化石産地 “ダイナソー小林” も注目『福島の可能性、楽しみ』	仲川邦広

② 南相馬チャンネル「博物館通信」

東日本大震災後に開局し、エリア放送を行っている南相馬チャンネルの番組として、令和4年11月から開始。おおむね毎月1回・第3金曜日から1週間放映。

号 数	放送開始日	テーマ	担当学芸員
Vol. 30	令和7年5月2日	縄文	森 幸彦（文化財係）
Vol. 31	5月23日	企画展「野馬追トラベラーズ」	二上文彦
Vol. 32	6月27日	ミニテーマコーナー展示「養蚕の道具展」	佐藤義典
Vol. 33	8月15日	製鉄遺跡	林 紘太郎（文化財係）
Vol. 34	9月5日	企画展「近代の戦争と南相馬」①	森 晃洋
Vol. 35	10月10日	企画展「近代の戦争と南相馬」②	森 晃洋
Vol. 36	10月31日	牛越城	森 晃洋
Vol. 37	12月5日	夜の森公園	森 晃洋
Vol. 38	令和8年1月9日	企画展「記憶を紡ぐ 南相馬市博物館30年」①	二上文彦ほか
Vol. 39	2月27日	新属・新種の植物化石「オーハニエラ」	仲川邦広
Vol. 40	3月6日	企画展「記憶を紡ぐ 南相馬市博物館30年」②	佐藤義典ほか

③ 南相馬市公式ポッドキャスト「聞く ミナミソウマガジン」

号 数	配信日	テーマ	担当学芸員
#04	令和7年6月6日	南相馬市博物館館長に聞く！ 相馬野馬追の原点とは？	二上文彦
#05	6月13日	明治維新・戦後GHQ…相馬野馬追、千有余年の歴史の中での注目トピックは？	二上文彦
#06	6月20日	野馬追はいま、令和の歴史的転換点へ	二上文彦
#07	6月27日	野馬追マニアへの第一歩！ 南相馬市博物館の歩き方	二上文彦
#08	7月4日	なぜ野馬追に魅せられ、追い続けるのか？ 館長・二上さんの原点と想い	二上文彦

(5) 広告の掲載依頼・情報提供

日 付	依頼・提供先	掲載メディア等	担当学芸員
令和7年 4月6日	(株)ラジオ福島など	newsR、ふくしまニュースリリース 企画展「野馬追トラベラーズ」	二上文彦
4月9日	株式会社いんふお	『info 5月号』イベント情報 企画展「野馬追トラベラーズ」	二上文彦
4月18日	(公財) 福島県文化振興財団	『ふくしま文化情報 5月号』 イベント情報 企画展「野馬追トラベラーズ」	二上文彦
8月9日	(株)ラジオ福島など	newsR、ふくしまニュースリリース 企画展「近代の戦争と南相馬」	森 晃洋
9月1日	福島県文化センター	県文化センターHP 講座史料をよむ「戦国時代の相馬一族と南奥世界③」	森 晃洋

(6) 出版物

① 年 報 (令和5年度実施状況) / 博物館ホームページに公開

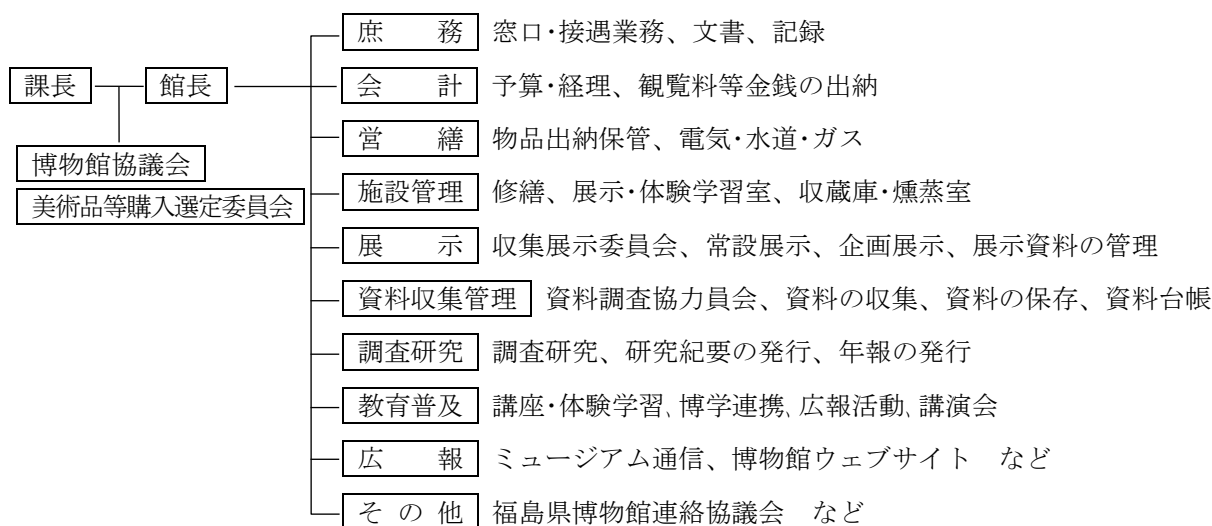
② 展示会関連

- ・企画展パンフレット 企画展「野馬追トラベラーズ」 A4 12ページ 2,000部
- ・企画展パンフレット 企画展「近代の戦争と南相馬」 A4 16ページ 2,000部
- ・企画展図録 企画展「記憶を紡ぐ 南相馬市博物館30年」 A4 44ページ 500部

V 管理運営

1. 組織・職員

(1) 博物館組織



(2) 職員体制

職 名	氏 名	担当分野	備 考
文化財課長	川田 強		
博物館長	二上 文彦	野馬追	
主任主査	斎藤 直之		
主 査	志賀 俊一		再任用

職 名	氏 名	担当分野	備 考
主任学芸員	森 晃洋	歴 史	
主任学芸員	仲川 邦広	自 然	
学芸員	佐藤 義典	民 俗	
学芸員（会計年度任用職員）	川崎 悠	民俗／郷土料理	
学芸員（会計年度任用職員）	茂木千恵美	（教育普及・歴史）	
事務補助（会計年度任用職員）	品川栄一郎		令和5年5月～8年3月
事務補助（会計年度任用職員）	荒 哲也		令和6年3月～7年8月
事務補助（会計年度任用職員）	宍戸 広美		令和6年4月～
事務補助（会計年度任用職員）	大谷 茉穂		令和7年5月～
事務補助（会計年度任用職員）	羽田 千尋		令和7年9月～

2. 各委員会等

（１）博物館協議会

委員名簿（令和6年4月1日～8年3月31日）

役職名	氏 名	所 属
会 長	岩崎 真幸	学識経験者（民俗）
副会長	栗村 文夫	一般社団法人南相馬観光協会
委 員	遠藤 友彦	南相馬市生涯学習推進委員会
委 員	目黒 晶保	南相馬市私立幼稚園協会（青葉幼稚園）
委 員	青田 雅子	小学校長会（南相馬市立太田小学校長）
委 員	小林 喜徳	中学校長会（南相馬市立鹿島中学校長）
委 員	中野 茂	高等学校長会（福島県立原町高等学校長）
委 員	岡田 清一	学識経験者（歴史）
委 員	竹谷陽二郎	学識経験者（自然）
委 員	吉野 高光	学識経験者（考古）

[会 議]

- ・第1回 令和7年6月24日
報 告／令和6年度事業の実施状況について
令和7年度事業計画および実施状況について
- ・第2回 令和8年2月12日
諮 問／令和8年度南相馬市立博物館事業計画について

（２）収集展示委員会

委員名簿（令和6年4月1日～8年3月31日）

役職名	部 会	氏 名	職 名 等
部会長	自 然	末永 福男	あぶくま生物同好会会員
委 員		平 宗雄	日本洞窟学会会員

役職名	部 会	氏 名	職 名 等
委 員		吉田 豊	学識経験者
委 員		湯澤 義秀	学識経験者
委 員		三田村敏正	福島虫の会会員
副委員長・部会長	考 古	玉川 一郎	南相馬市文化財保護審議会副会長
委 員		小野田義和	福島県立相馬高等学校教諭
委 員		佐藤 悦夫	元中学校教諭
委 員		門馬眞一郎	学識経験者
委員長・部会長	歴 史	二上 裕嗣	南相馬市文化財保護審議会会長
委 員		猪狩 正志	南相馬市文化財保護審議会委員
委 員		山本富士夫	南相馬市文化財保護審議会委員
委 員		水久保克英	元南相馬市博物館学芸員
委 員		板倉 世典	元南相馬市博物館学芸員
部会長	民 俗	岩崎 真幸	みちのく民俗文化研究所代表
委 員		川島 秀一	東北大学災害科学国際研究所シニア研究員
委 員		小林 初夫	奥羽大学図書館長
委 員		丹野香須美	福島県文化財保護審議会委員
委 員		二本松文雄	元南相馬市博物館学芸員

〔会 議〕

- ▶ 全体会 令和8年2月23日
 - 議 事／令和8年度事業計画について
 - その他／1)「相馬野馬追大絵図」について
 - 2) 新属・新種「オーハニエラ・タイロフォリア」について
- ▶ 自然部会 令和8年3月29日
 - 報 告／令和7年度事業実施状況について（新規収集資料等）
 - 議 事／令和8年度以降の企画展内容について
- ▶ 民俗部会 令和8年3月4日
 - 報 告／令和7年度事業実施状況について（新規周蔵資料等）
 - 協 議／令和8年度事業実施予定について（企画展「相双の和紙とくらし」等）

(3) 資料調査協力員

協力員名簿（令和6年4月1日～7年3月31日）

役職名	地 区	氏 名	役職名	地 区	氏 名
会 長	原 町	相良 征一	委 員	原 町	柚原 恒貞
副会長	小 高	梅田 秀夫	委 員	原 町	門馬 和雄
副会長	鹿 島	八巻 安夫	委 員	小 高	鈴木 敬徳
委 員	原 町	高田 求幸	委 員	鹿 島	石橋 三男
委 員	原 町	八巻 仁			

3. 予 算

令和7年度の予算執行状況

[歳 入]

科 目	当初予算額 (円)	決算額 (円)
博物館観覧料・使用料	1,523,000	1,684,150
博物館書籍頒布代	735,000	275,900
小高町史頒布代	33,000	46,500
鹿島町史頒布代	20,000	10,600
原町市史頒布代	64,000	79,800
自動販売機設置電気料	38,000	35,030
東ヶ丘公園電気料	180,000	161,383
博物館営繕事業債	3,700,000	3,200,000
合 計	6,293,000	5,493,363

[歳 出]

事業名	当初予算額 (円)	決算額 (円)
博物館協議会委員費	222,000	118,922
博物館管理運営事業	35,404,000	32,088,183
博物館営繕事業	12,362,000	11,585,640
博物館企画展示事業	2,309,000	1,922,600
博物館学芸調査事業	1,973,000	1,341,560
博物館体験学習・講座事業	498,000	441,633
博物館資料取得等事業	2,000,000	2,000,000
恐竜化石探索調査・教育普及事業	836,000	1,627,311
合 計	55,604,000	51,125,849

4. 入館者統計等

(1) 令和7年度博物館入館者数・利用者数

入館者数				その他 利用者数	合計人数	開館日数
一般	高校生	小・中学生	小 計			
6,410	87	1,162	7,689	4,957	12,686	309

その他利用者数内訳

利用事由		件 数	利用者数
講座・体験学習・企画展関連事業など		37	912
出前講座 (講師派遣)	学校関係	27	909
	一 般	30	1,308
キッズミュージアム		1	33
恐竜化石探索調査・教育普及事業		5	1,516
博物館実習受け入れ		2	2

利用事由	件 数	利用者数
職場体験受け入れ	3	5
その他機関との連携事業	2	142
取材・レファレンス	130	130
合 計	237	4,957

(2) 令和7年度博物館入館者数月別集計表

*小数点以下四捨五入

年 月	入館者数				開館日数	1日平均 入館者数
	一 般	高校生	小・中学生	小 計		
令和7年4月	325	5	14	344	26	13
5月	1,552	21	63	1,636	27	61
6月	477	4	187	668	25	27
7月	397	7	49	453	27	17
8月	751	9	98	858	27	32
9月	517	10	164	691	25	28
10月	426	7	203	636	27	24
11月	570	14	38	622	26	24
12月	234	0	50	284	24	12
令和8年1月	307	1	26	334	24	14
2月	456	2	192	650	24	27
3月	428	7	78	513	26	20
合 計	6,440	87	1162	7,689	308	25

(3) 平成7年度～令和7年度博物館入館者数

*小数点以下四捨五入

年 度	入館者数				開館日数	1日平均 入館者数
	一 般	高校生	小・中学生	小 計		
平成7年度	—	—	—	19,604	186	105
8年度	12,648	147	2,025	14,820	304	49
9年度	10,690	183	1,965	12,838	302	43
10年度	9,768	372	1,756	11,896	307	39
11年度	9,744	82	1,593	11,419	309	37
12年度	8,589	115	2,437	11,141	313	36
13年度	10,253	85	2,539	12,877	315	41
14年度	8,536	111	2,184	10,831	312	35
15年度	10,487	237	3,388	14,112	307	46
16年度	10,008	174	2,892	13,074	303	43
17年度	13,279	201	3,480	16,960	304	56
18年度	10,422	198	3,538	14,158	308	46
19年度	11,294	61	3,709	15,064	302	50
20年度	10,153	64	3,129	13,346	309	43
21年度	8,458	108	3,058	11,624	301	39
22年度	8,387	143	3,251	11,781	288	41
23年度	1,889	6	414	2,309	195	12

年 度	入館者数				開館日数	1日平均 入館者数
	一 般	高校生	小・中学生	小 計		
平成24年度	5,106	29	1,842	6,977	308	23
25年度	5,793	47	1,480	7,320	306	24
26年度	7,044	89	1,541	8,674	308	28
27年度	9,205	119	1,324	10,648	308	35
28年度	6,996	106	1,182	8,284	307	27
29年度	6,522	82	1,340	7,944	306	26
30年度	6,306	96	1,138	7,540	301	25
令和元年度	5,417	59	1,326	6,802	309	22
2 年度	3,350	57	885	4,292	259	17
3 年度	4,453	35	861	5,349	255	21
4 年度	5,855	73	947	6,875	304	23
5 年度	6,128	66	1,110	7,304	305	24
6 年度	6,641	86	1,214	7,941	306	26
7 年度	6,440	87	1,162	7,689	309	25
合 計	239,861	3318	58,710	321,493	9156	35

VI 資 料

1. 南相馬市立博物館条例

平成18年1月1日
条例第203号

(設置)

第1条 博物館法(昭和26年法律第285号)第18条、地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)第30条及び地方自治法(昭和22年法律第67号)第244条第1項の規定に基づき、歴史、民俗、自然科学等に関する資料を収集し、保管し、展示して市民の学習、学術及び文化の発展に資するため、南相馬市立博物館(以下「博物館」という。)を設置する。

(名称及び位置)

第2条 博物館の名称及び位置は、次のとおりとする。

名称 南相馬市博物館

位置 南相馬市原町区牛来字出口194番地

(事業)

第3条 博物館は、次に掲げる事業を行う。

- (1) 歴史、民俗、考古、自然科学等に関する実物、標本、模写、模型、文献、図表、写真、フィルム等の資料(以下「博物館の資料」という。)を収集し、保管し、及び展示すること。
- (2) 博物館の資料に関する専門的かつ技術的な調査研究を行うこと。
- (3) 博物館の資料に関する講演会、講習会、研究会等を開催すること。
- (4) 博物館の資料の利用に関し必要な説明、助言及び指導を行うこと。
- (5) 前各号に掲げるもののほか、その設置の目的を達成するために必要な事業を行うこと。

(観覧料)

第4条 博物館の展示品(以下「展示品」という。)の観覧料は、別表のとおりとする。

2 市長は、期間を定めて特別の展示その他特別の催しを行う場合には、前項の規定にかかわらず、1,000円を越えない範囲内で別に観覧料を定めることができる。

3 展示品を観覧しようとする者は、観覧料を入館の際に納入しなければならない。

(観覧料の減免)

第5条 市長は、公益上必要があると認めるときは、前条の観覧料を減額し、又は免除することができる。

(利用の制限)

第6条 南相馬市教育委員会(以下「教育委員会」という。)は、次の各号のいずれかに該当する者に対しては、

博物館の利用を拒むことができる。

- (1) 適当な指導者又は付添人のない6歳未満の者
- (2) 泥酔者
- (3) 他人に危害を及ぼし、若しくは他人の迷惑となるおそれのある物品を携帯し、又は動物を伴う者
- (4) 係員の指示に従わない者
- (5) 前各号に掲げる者のほか、博物館の管理上支障を及ぼすおそれがあると認めた者

(協議会)

第7条 博物館法第20条第1項の規定に基づき、南相馬市立博物館協議会（以下「協議会」という。）を置く。

- 2 協議会の委員の定数は、10人以内とする。
- 3 協議会の委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 4 前2項に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、教育委員会が定める。

(委員会)

第8条 博物館の収蔵及び展示資料購入の選定に関して調査審議を行わせるため、市長の附属機関として南相馬市立博物館美術品等購入選定委員会（以下「委員会」という。）を置くことができる。

- 2 委員会は、前項の調査審議を行うほか、収蔵及び展示資料購入に関して市長又はその委任を受けた者に対して指導助言を行うことができる。
- 3 委員会は、20人以内の委員をもって構成する。
- 4 前条第3項及び第4項の規定は、委員会について準用する。

(委任)

第9条 この条例に定めるもののほか、博物館の管理その他この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会が別に定める。

附 則

(施行期日)

- 1 この条例は、平成18年1月1日から施行する。

(経過措置)

- 2 この条例の施行の日の前日までに、合併前の小高町埴谷・島尾記念文学資料館条例（平成12年小高町条例第21号）、鹿島町歴史民俗資料館条例（昭和56年鹿島町条例第11号）又は原町市博物館条例（平成6年原町市条例第34号）の規定によりなされた処分、手続その他の行為は、それぞれこの条例の相当規定によりなされたものとみなす。

附 則（平成18年条例第243号）

この条例は、公布の日から施行し、改正後の南相馬市附属機関設置条例等の一部を改正する条例の規定は、平成18年1月1日から適用する。

附 則（平成18年条例第285号）

この条例は、平成19年4月1日から施行する。

附 則（平成24年3月28日条例第12号）

この条例は、平成24年4月1日から施行する。

附 則（平成24年12月20日条例第40号）

この条例は、公布の日から施行する。

別表（第4条関係）

南相馬市博物館観覧料

区 分	観覧料の額（1人につき）	
	個 人	団 体
一般	300円	250円
高校生	200円	150円
中学生及び小学生	100円	80円

備考

- 1 「団体」とは、20人以上の団体をいう。
- 2 引率者については、20人に1人の割合で無料とする。

2. 南相馬市立博物館規則

平成18年 1 月 1 日
教育委員会規則第39号

(趣旨)

第1条 この規則は、南相馬市立博物館条例（平成18年南相馬市条例第203号。以下「条例」という。）の施行に関し必要な事項を定めるものとする。

(休館日)

第2条 南相馬市立博物館（以下「博物館」という。）の休館日は、次のとおりとする。

- (1) 月曜日(休日に当たるときは、その直後の平日（日曜日及び祝日以外の日をいう。）)
- (2) 1月1日から同月3日まで及び12月29日から同月31日までの日
- 2 前項の規定にかかわらず、南相馬市教育委員会（以下「教育委員会」という。）は、特に必要があると認めるときは、臨時に休館し、又は前項に規定する休館日に臨時に開館することができる。

(開館時間等)

第3条 博物館の開館時間は、午前9時から午後4時45分までとする。ただし、博物館に入館できる時間（以下「入館時間」という。）は、午前9時から午後4時までとする。

- 2 前項の規定にかかわらず、教育委員会は、特に必要があると認めるときは、同項に規定する開館時間又は入館時間を臨時に変更することができる。

(観覧券の交付)

第4条 博物館の館長（以下「館長」という。）は、条例第4条の規定による観覧料を納入した者に対し、観覧券（様式第1号）を交付するものとする。

(観覧料の減免及びその手続)

第5条 条例第5条の規定により、次の各号に掲げる場合においては、それぞれ当該各号に定める額の観覧料を減額し、又は免除するものとする。

- (1) 市の区域内に存する小学校、中学校及び高等学校の児童生徒並びに市内に住所を有する小学生、中学生及び高校生が観覧するとき 全額
- (2) 市の区域外に存する小学校、中学校及び高等学校の児童生徒が学校教育活動として観覧するとき 半額（引率者にあつては全額）
- (3) 市が主催する講習会、講座等の活動として観覧するとき 全額
- (4) 他の地方公共団体が主催する講習会、講座等の活動として観覧するとき 半額（引率者にあつては全額）
- (5) 前4号に掲げる場合のほか、減免をすることが公益上適当であると認めるとき 全額
- 2 前項の規定により観覧料の減免を受けようとする者（前項第1号に規定する者を除く。）は、観覧しようとする日までに観覧料減免申請書（様式第2号）を館長に提出し、その承認を受けなければならない。ただし、休日その他特別の日に博物館を開放する場合は、この限りでない。
- 3 館長は、前項本文の規定により観覧料の減免を承認したときは、観覧料減免承認書（様式第3号）を交付するものとする。

(遵守事項)

第6条 博物館を利用する者は、次に掲げる事項を遵守しなければならない。

- (1) 博物館の施設、設備、展示品等をき損し、又は汚損しないこと。
- (2) 館長の承認を得ないで、展示品の模写又は撮影をしないこと。
- (3) 所定の場所以外において、喫煙又は飲食をしないこと。
- (4) 前3号に掲げるもののほか、館長が指示する事項

(損害賠償)

第7条 博物館を利用する者が故意又は過失により博物館の施設、設備、展示品等を損傷し、又は滅失したときは、教育委員会の定めるところにより、その損害を賠償しなければならない。

(協議会)

第8条 南相馬市立博物館協議会（以下「協議会」という。）に会長及び副会長を1人置き、委員の互選により定める。

- 2 会長は、会務を総理し、協議会を代表する。
- 3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は欠けたときは、その職務を代理する。

第9条 協議会の会議は、会長が招集し、会長がその議長となる。

- 2 協議会の会議は、委員の過半数が出席しなければこれを開くことができない。
- 3 協議会の会議の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
- 4 協議会の庶務は、南相馬市博物館において処理する。

(資料の寄託)

第10条 博物館は、展示又は調査研究の目的で博物館に収蔵する資料（以下「資料」という。）の寄託を受けることができる。

2 博物館に資料を寄託しようとする者は、南相馬市立博物館収蔵資料寄託申出書（様式第4号）により館長に申し出るものとする。

3 館長は、前項の規定により資料の寄託の申出があった場合において、博物館の資料として当該寄託資料を保管し、又は一般の利用に供することが適当と認めるものについて受託することができる。

4 館長は、資料を受託したときは、南相馬市立博物館収蔵資料受託書（様式第5号）を寄託者に交付する。

5 館長は、受託した資料を展示する場合において、寄託者の同意があるときは、当該寄託資料に寄託者の氏名等を表示することができる。

(寄託期間等)

第11条 館長は、受託した資料については、原則として2年間受託するものとし、博物館の資料の管理上支障があるとき、又は寄託に際して博物館と寄託者の間に寄託期間の定めがある場合において寄託期間が満了したときは、受託した資料を寄託者に返還するものとする。

2 館長は、受託した資料について、博物館と寄託者の間に寄託期間の定めがある場合において寄託期間が満了する日の1月前までに寄託者から別段の申出がないときは、その満了の日の翌日から起算して1年間寄託を継続する旨の申出があったものとみなして、当該寄託期間を延長するものとする。その延長に係る寄託期間が満了した場合も、同様とする。

(寄託等に要する費用の負担)

第12条 資料の寄託及び返還に要する運搬費その他の費用は、寄託者の負担とする。ただし、館長が特に理由があると認めるときは、この限りでない。

(寄託資料の損害賠償)

第13条 博物館の責めに帰することができない理由により、受託した資料を亡失し、又はき損したときは、博物館は、その損害賠償の責めを負わない。

(資料の寄贈)

第14条 博物館に資料を寄贈しようとする者は、南相馬市立博物館収蔵資料寄贈申出書（様式第6号）により館長に申し出るものとする。

2 館長は、前項の規定により資料の寄贈の申出があった場合において、博物館の資料として適当と認めるものについて受納することができる。

3 館長は、資料を受納したときは、南相馬市立博物館収蔵資料受納書（様式第7号）を寄贈者に交付する。

(寄贈資料の取扱い)

第15条 館長は、寄贈された資料を展示する場合において、寄贈者から申出があるときは、当該寄贈資料に寄贈者の氏名等を表示することができる。

(寄贈に要する費用の負担)

第16条 第12条の規定は、寄贈に要する費用の負担について準用する。

(資料の館外貸出し)

第17条 博物館の資料は、貸出しすることができる。

2 資料の貸出しを受けることができる者は、次に掲げる者とする。

(1) 国立の博物館、博物館法（昭和26年法律第285号）第2条第1項に規定する博物館及び同法第31条第2項に規定する指定施設

(2) その他館長が適当と認める者

3 資料の館外貸出しを受けようとする者は、市立博物館館外貸出許可申請書（様式第8号）を提出し、館長から市立博物館館外貸出許可書（様式第9号）の交付を受けなければならない。

(事業計画の作成及び報告)

第18条 館長は、毎年翌年度において実施しようとする事業計画を協議会の諮問を経て作成し、年度末までに南相馬市教育委員会教育長（以下「教育長」という。）の承認を受けなければならない。

2 館長は、年度終了後1月以内に事業計画の実施状況を取りまとめ、教育長に報告しなければならない。

(博物館の警備及び防災)

第19条 館長は、年度始めに博物館に関する警備及び防災計画を作成し、教育長に報告しなければならない。

(その他)

第20条 この規則に定めるもののほか、博物館の管理その他この規則の施行に関し必要な事項は、教育長が別に定める。

附 則

Ⅵ 資 料

(施行期日)

- 1 この規則は、平成18年1月1日から施行する。

(経過措置)

- 2 この規則の施行の日の前日までに、合併前の小高町埴谷・島尾記念文学資料館管理規則（平成12年小高町教育委員会規則第12号）、鹿島町歴史民俗資料館条例施行規則（昭和56年鹿島町教育委員会規則第1号）又は原町市博物館規則（平成7年原町市規則第1号）の規定によりなされた処分、手続その他の行為は、それぞれこの規則の相当規定によりなされたものとみなす。

附 則（平成18年教委規則第51号）

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則（平成20年教委規則第5号）

この規則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則（平成24年3月30日教委規則第2号）

この規則は、平成24年4月1日から施行する。

附 則（平成24年12月20日教委規則第7号）

(施行期日)

- 1 この規則は、公布の日から施行する。

(様式に関する経過措置)

- 2 この規則の施行の際、この規則による改正前の南相馬市立博物館規則の規定により作成されている様式書類は、なお当分の間これを使用することができる。

附 則（令和6年3月26日教委規則第8号）

この規則は、公布の日から施行する。

附 則（令和7年2月14日教委規則第1号）

この規則は、令和7年4月1日から施行する。様式第1号（第4条関係）

様式第2号（第5条関係）

様式第3号（第5条関係）

様式第4号（第10条関係）

様式第5号（第10条関係）

様式第6号（第14条関係）

様式第7号（第14条関係）

様式第8号（第17条関係）

様式第9号（第17条関係）

3. 南相馬市立博物館美術品等購入選定委員会要綱

平成18年1月1日
教育委員会告示第11号

(趣旨)

- 第1条 この告示は、南相馬市立博物館条例（平成18年度南相馬市条例第203号。以下「条例」という。）第8条の規定に基づき、南相馬市立博物館美術品等購入選定委員会（以下「委員会」という。）に関し必要な事項を定めるものとする。

(組織)

- 第2条 委員会に委員長及び副委員長を1人置き、委員の互選により定める。

- 2 委員長は、委員会を代表し、会務を掌理する。

- 3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は欠けたときは、その職務を代理する。

(任務)

- 第3条 委員の任務は、教育長の諮問に応じ、次のとおりとする。

- (1) 南相馬市立博物館の収蔵資料購入の選定
- (2) 南相馬市立博物館の展示資料購入の選定
- (3) 前2号に掲げるもののほか、収蔵及び展示資料購入に係る指導助言

(専門部会)

- 第4条 専門的な調査選定を行うため、委員会に専門部会を置き、必要に応じて審議する。

- 2 専門部会は、甲冑部会、刀剣部会、図書部会及び美術工芸部会とし、委員会の委員をもって構成する。

- 3 各専門部会の委員は、5人以内とする。

(会議)

第5条 委員会及び専門部会の会議は、委員長が招集し、委員長が議長となる。

2 委員長は、委員会及び専門部会の会議の審議結果を南相馬市教育委員会教育長（以下「教育長」という。）に答申する。

(庶務)

第6条 委員会の庶務は、南相馬市博物館において処理する。

(その他)

第7条 この告示に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、教育長が別に定める。

附 則

この告示は、平成18年1月1日から施行する。

4. 南相馬市博物館収集展示委員会設置要綱

(設置)

第1条 南相馬市博物館（以下「博物館」という。）に収蔵する資料の収集並びに展示計画について専門的な指導助言を得るため、南相馬市博物館収集展示委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(組織)

第2条 委員会は、20人以内の委員をもって構成する。

2 委員会の委員は、南相馬市教育委員会が委嘱する。

3 委員会に委員長及び副委員長を置き、委員長副委員長は、委員の互選により選出する。

4 委員長は、委員会を代表し、会務を掌理する。

5 副委員長は、委員長を補佐し、委員長事故あるときは、その職務を代理する。

(任務)

第3条 委員の任務は、教育長の求めに応じ、次のとおりとする。

一 博物館の収蔵資料の収集及び情報の提供。

二 収蔵資料の調査研究にかかる指導助言。

三 収蔵資料の展示計画及び展示にかかる指導助言。

(専門部会)

第4条 専門的な調査研究を行うため、委員会に専門部会を置くことができる。

2 専門部会は、歴史部会、民俗部会、考古部会、自然部会とし委員会の委員をもって構成する。

3 専門部会に部会長を置き、部会に属する専門的事項を掌る。

(任期)

第5条 委員会の委員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

2 委員に欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会議)

第6条 委員会の会議は、委員長が招集し、専門部会は、部会長が随時招集することができる。

2 部会長は、専門部会の会議の内容を委員長に報告し、委員会の会議については、委員長が専門部会の内容も含めて教育長に報告する。

3 委員長が特に必要と認めた場合には、専門的分野に関する学識経験者を特別委員として委嘱するよう教育長に具申することができる。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、南相馬市博物館において処理する。

(その他)

第8条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、教育長が定める。

付 則

この要綱は、平成18年1月1日から施行する。

5. 南相馬市博物館収集展示委員会運営細則

(目的)

第1条 南相馬市博物館収集展示委員会の円滑な運営を図るため、同設置要綱第8条の規定により、運営に関し必要な事項を定める。

(組織)

第2条 専門部会は、5人以内の委員をもって構成する。

Ⅵ 資 料

2 専門部会の部会長は、部員の互選により選出する。

(専門部会の任務)

第3条 専門部会の任務は、次のとおりとする。

- 一 部会に属する資料の調査、収集、保管、展示にかかる指導助言
- 二 常設展、企画展等の展示計画並びに展示方法・期間にかかる指導助言
- 三 部会相互の情報交換と連携・協力

(会議)

第4条 委員会の会議は、毎年4月と10月の2回招集し、委員長がその議長となる。

2 専門部会は、その部会に属する企画展の開催1年前までに招集し、部会長がとりまとめる。

3 企画展にかかる専門部会は、2回以上招集する。

4 専門部会の部会長は、企画展の計画案を委員会に提案し、承認を得る。

5 部会長は、企画展の実施状況をとりまとめ、委員会に報告する。

(庶務)

第5条 専門部会に関する庶務は、南相馬市博物館の担当学芸員が処理する。

付 則

この運営細則は、平成18年1月1日から施行する。

6. 南相馬市博物館資料調査協力員会設置要綱

(目的)

第1条 この要綱は、南相馬市博物館に収蔵する資料の収集にあたり、資料の所在情報を得るため南相馬市博物館資料調査協力員会（以下「協力員会」という。）を設置する。

(組織)

第2条 協力員会は、30人以内の協力員を持って構成する。

2 協力員会の協力員は、南相馬市教育委員会が委嘱する。

3 協力員会に会長及び副会長を置き、会長、副会長は、協力員の互選により選出する。

4 会長は、協力員会を代表し、会務を掌理する。

5 副会長は、会長を補佐し、会長事故あるときは、その職務を代理する。

(任務)

第3条 協力員の任務は南相馬市博物館館長（以下「館長」という。）の求めに応じ次のとおりとする。

- 一 資料所在の情報提供
- 二 資料所有者の紹介
- 三 資料の収集協力

(任期)

第4条 協力員会の協力員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

2 協力員に欠員が生じた場合の補欠の協力員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会議)

第5条 協力員会の会議は、会長が招集し、部会は部会長が随時招集することができる。

2 会長は、協力員会の会議の内容を、部会長は部会の会議の内容を館長に報告する。

(庶務)

第6条 協力員会の庶務は、南相馬市博物館において処理する。

(その他)

第7条 この要綱に定めるもののほか、協力員会の運営に関し必要な事項は、教育長が定める。

付 則

この要綱は、平成18年1月1日から施行する。

付 則

この要綱は、平成18年9月4日から施行する。

7. 南相馬市博物館の資料収集に関する基本方針

令和3年7月1日

はじめに

南相馬市博物館（以下「当館」）は、南相馬市と周辺地域に関する自然科学資料および人文科学資料を収集・保管し、展示することにより、市民の学術・文化の発展に資することを目的とした生涯学習・研究機関である。

当館が収集する資料は、当地域の自然や文化の特色を表すとともに、当地域の成り立ちに関する理解を深めるものである。したがって、収集資料を調査や研究、教育普及事業に活用することは、人びとの科学的学習意欲の向上に資することにつながる。加えて、収集資料は当館における活動の基盤となると同時に、その活動を保証する役割を持つ。

また、当館は資料の収集活動によって当地域に伝わる貴重な資料の散逸を防ぐ社会的役割を担っている。そして、収集した資料を市民の学習活動を支える体系的な資料群として保存し、地域共通の財産として将来にわたって確実に継承していくことが求められる。

当館の生涯学習・研究機関の目的・責務を果たしていくために、活動の基盤となる資料の収集について基本方針を定める。

1 資料収集の方針

当館では、収集資料が膨大になりつつある一方、多岐にわたる資料を将来にわたって体系的・計画的に収集・保管していく必要がある。このため、従来の資料収集基準を踏まえ、各分野において対象となる資料の特徴や特性に応じて、分野ごとに収集方針を定めることとし、当面の資料収集方針を以下のとおりとする。

1) 自然

自然分野の資料はおもに自然史標本（または標本）と呼ばれる。自然史標本は有史以前から現在にいたるまでの南相馬市と周辺地域の自然の成り立ちを知るうえでは不可欠な存在であり、自然とともに形作られてきた地域の歴史や文化を理解するうえでも重要な役割を持っている。この点が、自然分野を研究し資料を収集する基本的理念である。

i) 収集対象

当館で自然の分野が扱う資料は、生物標本と地学標本に大別される。対象となる自然環境がつねに変動するという性質上、自然史標本の収集は恒久的に行うことが求められるが、実際には収蔵スペースや管理コストの限界といった制約が存在するため、収集資料の対象を選定する場合がある。おもな収集対象については以下のとおりとする。

- 生物標本／哺乳類、鳥類、魚類、両生類、爬虫類、昆虫、節足動物、軟体動物、維管束植物、蘚苔類、藻類、菌類、生態標本等の動植物標本
- 地学標本／動植物化石、岩石、鉱物、地層剥ぎ取り標本など
- その他／動植物・化石等のレプリカ資料、当地域で調査研究が行われた際の写真・映像・音声・ノート等の記録資料、当地域の自然史研究者の採集道具や蔵書等所蔵品など

ii) 収集方針

- ◇ 標本収集の対象となる地域範囲は当地域を中心とし、南相馬市の生物・地質との関連が認められる地域の標本についても積極的に収集する。
- ◇ 収集が十分でない分類群、未収集産地、周辺地域において新種等の発表があったもの、生態系や人間生活への影響が懸念される移入生物（外来生物）も収集する。
- ◇ 化石の産地として知られる南相馬市は古生代・中生代・新生代の地層が観察でき、資料の状態や学術的な価値を勘案し、化石標本は積極的に収集する。

2) 考古

考古分野で扱う資料は、文字や記録が十分ではない時代、地域の人びとの具体的な営みや社会を知るうえでは不可欠で、南相馬市と周辺地域の歴史を理解するためには重要な役割がある。この点に考古資料を収集することの基本理念がある。

考古分野で対象とする資料の多くは、文化財保護法により保護の対象となっている遺跡の行政目的の発掘調査の出土品として収集される。

i) 収集対象

対象とする資料は、「出土品の取扱い基準」（福島県教育委員会 平成28年4月1日）に準じるものとし、旧石器時代から中世（具体的には縄文期）までの考古資料が中心となる。しかし、当地域の歴史を物語るうえで重要と認められる場合は、近世・近代・現代の資料も考古分野の資料に加える。おもな収集対象は以下のとおりとする。

- 出土品／土器・陶磁器、土製品、石器・石製品、木器、骨角器、金属器、鉄塊、瓦・磚、ガラス製品、鉄滓等製品の副産物、粘土塊等その他の原材料、食料残渣等、家畜等の遺体、遺構を構成する部材、人骨、木炭、焼失住居の焼失材
- 記録類／発掘調査等で作成された写真資料や図面資料等の記録類のほか、他の博物館等研究紀要や発掘調査報告書、現地説明会資料など

ii) 収集方針

Ⅵ 資 料

- ◇ 南相馬市が発掘調査を実施し、調査報告書を刊行した調査の出土品等は、「出土品の取扱い基準（平成28年4月1日）」に準じて、原則として当館で保管する。
- ◇ 大学等研究機関による発掘調査等で出土した遺物や作成された記録類、他の研究機関等で過去に採取され保管されている資料は、南相馬市の遺跡から出土したことが明らかな資料は収集する。
- ◇ 泉官衙遺跡等行方郡家に関わる資料、真野古墳群に関わる金属器等の国指定史跡等の重要な遺跡に関する資料は重点的な収集に努める。
- ◇ 南相馬市内に所在する遺跡の表面採取等で得られた、個人が所有するコレクションについては、当地域の歴史を理解するうえで必要と判断される資料は、市外に散逸しないように積極的に収集する。

3) 歴 史

歴史の分野で取り扱う資料は、各時代における政治や経済、社会、文化、生活等を知るうえで必要不可欠な存在であり、その地域にとっての「履歴書」にたとえられるように、地域の歴史を明らかにする手掛かりとなる。これらの歴史資料を収集・整理・保管・活用することにより、南相馬市と周辺地域の歴史をより具体的に理解することができる。そして、当館には調査・研究の成果を市民に還元する役割があり、この点に歴史資料を取り扱う基本的な理念がある。

なお、歴史資料は本来保管され続けた場所（家や行政機関等）で後世に伝えていくという「現地保存の原則」が望ましい。しかし、所蔵者の事情により資料の散逸や滅失の恐れがある場合、それを防ぐ役割を博物館は担っている。

i) 収集対象

対象とする時代は、中世・近世・近代・現代までの歴史資料を原則とし、中世以前についても収集対象とする。収集範囲は旧中村藩領を原則とし、おもな収集対象は以下のとおりとする。

- 文献史料／古文書、日記、系図、典籍など
- その他／絵図、書跡、絵画、彫刻、工芸品、建築、画像、映像、音声など

なお、文献史料のうち、すでに活字化され出版された史料集等に関しては、当地域の歴史的事実を裏付ける史料でもあるため、調査・研究の必要に応じて収集の対象とする。

ii) 収集方針

- ◇ 各時代の特徴を示すとともに当地域の歴史的価値や希少性等を検討し、当館が収集するに値すると判断される資料について収集する。
- ◇ 当地域の個人や行政区等の組織が保存する資料が、諸事情により散逸や滅失の危険がある場合には、一括資料として収集する。
- ◇ 他の地域と比較することで当地域の特徴を明らかにすることができることから、他の地域の資料をはじめ、中央・地方組織や民間が発行した当地域に関する資料等も収集する。
- ◇ 当地域に関する歴史資料は、すでに既存博物館等の研究施設に所蔵され、その情報が公表されている場合がある。このような情報を積極的に収集することに努めるとともに、該当施設で発行されている資料集や報告書等の刊行物を収集することで資料の充実を図る。
- ◇ 中世あるいはそれ以前にさかのぼることが明らかな歴史資料は、歴史的・文化的価値が高いと認められることから、積極的に収集し、資料の充実を努める。
- ◇ 近世・近代・現代の資料は下表にかかげる項目を収集資料の重要なテーマとして設定する。

近 世	近代・現代
藩政、給人・郷土制度、家・家族制度、諸産業、信仰、飢饉と復興政策、戊辰戦争等、当地域の近世の歴史や生活等を示す資料	近代の政治制度や政治運動および産業の発展と展開を示す近代化に関する資料
藩の財政再建と農村の復興を目指した報徳仕法とそれに携わった人物に関する資料	近代以降の報徳仕法の展開を示す資料およびそれに携わった人物に関する資料
江戸幕府や中村藩以外の藩が、中村藩をどのように位置づけていたかを示す資料	戦争に関する資料等（西南戦争～アジア太平洋戦争）
相馬駒焼や大堀焼等の美術工芸品や書画等、当地域にゆかりのある歴史的・文化的に価値の高い美術工芸資料	
	戦後復興、高度経済成長に関する資料
	教育・出版・芸術・音楽・スポーツ等、郷土の文化や人物に関する資料

4) 民 俗

私たちの歩んできた暮らしを具体的に伝える民具等には、今後新たな収集が難しいものも多い。民具は生活の具としての用を終えると廃棄されるため、保存が難しい。劇的に変貌する現代社会において、博物館がこれらの資料を後世に残し生活様式の推移の理解に供することは、社会への貢献につながる。

当館は南相馬市合併前の旧市町が収集した民具等を、個別な資料の優劣だけではなく、生活の変遷を伝えるまとまりをもった資料群として統合・再整理して公開し、新たな価値を提示していく。

i) 収集対象

民俗分野では、南相馬市と周辺地域の衣食住や信仰、年中行事等に関する民俗・習慣に関する資料を扱う。収集資料の対象は以下のとおりとする。

- 衣食住、生産・生業、交通・運輸・通信、交易、社会生活、信仰、民俗知識、民俗芸能、競技・娯楽・遊戯、人の一生、年中行事に関する資料（民具）
- 映像・音声記録（写真・ビデオ・録音テープ）など
- 民俗に関わる参考図書、研究者の蔵書など

ii) 収集方針

当地域は小規模な農村・山村・漁村・町場が関わり合いながら、生活と生産活動を続けてきた。そして、それぞれの地域の生活様式がコンパクトに凝縮されていることに特徴がある。この地域性を表すため、各地区の生活用具や生産用具をバランスよくまとまりをもった資料群として収集する。また、日常生活の変遷、特に日常と非日常の「ハレ」と「ケ」の生活が再現できるような資料の収集に努める。

なお、当地域以外の資料であっても、当地域の生活を理解するために必要な資料は収集する。

しかし、民俗資料は生活全般にかかわり、資料も多岐にわたることから、特に当地域の民俗を特徴づける資料として、以下の資料を優先的に収集する。

- ◇生業関係資料／当地域の暮らしを支える生業関係に関しては、紀年銘民具（特に農具）、産業技術の変遷を明らかにすることができる近代の野鍛冶資料、当地域の自然条件を生かした特徴的な生業である製塩関係資料の収集に努める。
- ◇身近にある衣文化、食文化関係資料／生活の変遷を見るうえで不可欠であるが、意識して保存しないと容易に滅失する。そこで、「ハレ」だけではなく、意図的に「ケ」にも視点を当てて資料を収集する。
- ◇お浜下り関連資料／神霊が海岸に下りて霊威を回復させるお浜下りは、浜通り各市町村に及び約2割が南相馬市に分布する。しかし、東日本大震災と近年の社会情勢から消滅の危機にあるため、お浜下りとそれに付随する民俗芸能に関連する資料を積極的に収集する。また、映像記録を制作・公開し、無形民俗文化財の保存・継承を図る。
- ◇絵馬・祈願品／これらは心意の表現であり、人びとの思いを解明するために不可欠な資料である。神社・仏閣等に奉納された、馬体安全を祈願した絵馬のほか、漁労・織物等の産業隆盛を祈願した産業絵馬、お札等の祈願品を収集する。
- ◇妙見信仰関係資料／中世以降の相馬・双葉地方では、妙見信仰は領主・藩主であった相馬氏の守護神としてあるとともに、土地の神である鎮守や馬の守護神として広く庶民の信仰を集めてきた。その信仰は現在もこの地方の社寺や「相馬野馬追」に受け継がれており、この地方の精神文化を理解するうえで重要な妙見信仰に関する資料を収集する。
- ◇口承文芸・方言・民謡関係資料／昔話・伝説等の音声記録やそれらを文字化した資料を作成・保存・公開する。

なお、民俗資料は、生活に密接に関わるものであり、用具として現在も利用できる特徴がある。この特性を生かし、資料を収集・保存するだけでなく、状況に応じて修理・再利用し、農具や紡績具の使用再現や蓄音機を用いたコンサート等、社会教育や多様な市民活動での活用を図る。については、活用の観点から必要と判断される資料も収集する。

また、従来の「民具」の範疇から逸脱する電気製品等の大量生産品や流通品等は、日常生活を再現でき、かつ暮らしの変遷をたどることができる。これらは教育資料としても有効であるため、収集に努める。

5) 美術・工芸

南相馬市と周辺地域に関連のある美術・工芸作品を収集・保存し、公開することは、作者が影響された体験や郷土への愛情、作品の意図、当時のようすを人びとに再考するきっかけとなり、多様な価値観を育むことができる。

現在、美術館がない南相馬市にとって美術・工芸作品を収集することは、それらの散逸あるいは消滅を防ぎ、当地域の価値のある財産を守ることにつながるため重要である。

i) 収集対象

中央の美術界で活躍した当地域出身、またはゆかりのある作家の作品および郷土の風景等、当地域を題材に

Ⅵ 資 料

した作品を収集し、以下の近代・現代美術を収集対象の中心とする。

- 洋画・日本画・版画・工芸・彫刻・デザイン・写真など
- 当地域を代表する作家に大きな影響を与えた作家等の作品

当館が所蔵する作品を拡充・補完するうえで必要な作品

ii) 収集方針

- ◇美術工芸的に優れたものについては、美術的価値や希少性等を鑑み、他の美術館と連携し、専門家の指導のもと、当館が収集・保存するに値すると判断される場合、その作品を収集する。
- ◇作品の意図がふさわしいと考えられるもの、展示会での評価、作家知名度、寸法、館キャパシティ等を勘考し、収集する。

6) 野馬追

国指定重要無形民俗文化財「相馬野馬追」は、旧中村藩領の地域アイデンティティを示す代表的な伝統行事であり、地域のシンボルとも位置付けられる重要な存在である。無形民俗文化財という性質上、それに関わる人びとによって伝承され、社会情勢によって時に変化が生ずる可能性があるため、その永続的な伝承にあたっては、普及活動等による人材育成が必要であり、それらの活動の基礎となる資料の調査研究は不可欠である。

当館はその資料を、収集・保管・調査研究・展示する特色ある博物館として開館し、野馬追の保存・伝承の一翼を担う機能を有する施設でもあることから、より積極的な資料収集を進める。

i) 収集対象

野馬追は多面的要素から成り立つ伝統行事であることから、当分野の資料は歴史・民俗・美術等、多岐にわたる。近世の野馬追絵画類・文書類や、当地域ゆかりの武器武具類といった、希少性が極めて高い資料を主とし、野馬追の歴史を示し、なおかつ行事に欠かせない下記の資料を収集対象とする。

- 絵画資料／絵馬、絵巻、絵画等
- 文書資料／野馬追に関わる古文書、行政資料、新聞記事、日記、出版物等
- 記録資料／写真、音声、映像
- 美術工芸資料／甲冑、刀剣、馬具、旗等

ii) 収集方針

- ◇絵画資料／武家文化を受け継ぐ行事性質の視点から、近世に描かれたものが最優先となり、武家行事から神社の神事へと変移した近代以降については、それらの経過が表現された歴史的価値を有するものを収集する。なお、近代以降の作家による絵画作品は、作家知名度・寸法・館キャパシティ等を勘案し、収集する。
- ◇文書資料／野馬追の歴史が記されたものであれば、歴史的価値の高いものを優先とし、中近世・近代は言うまでもなく、現代資料については長期的視点に基づき、編年を示す資料として例年発行される広報出版物等も収集する。特に、大きな社会変動・災害時等の野馬追の動向を示す資料は、将来の野馬追保存に寄与する部分が大いことから、現代資料の中でも注力して収集する。
- ◇記録資料／写真・動画類は家庭用カメラ普及以前のものが優先対象となり、文書類同様に編年を示すものとして、例年の行事写真・動画も収集する。
- ◇美術工芸資料／武器武具類は、旧領主相馬家をはじめ、当地域ゆかりの資料を最優先に収集する。なかでも甲冑・馬具は、参加者として行事を支える騎馬武者たちの参考に寄与する部分が大いことから、当地域以外の資料でも、歴史的価値を有するもの、美術工芸的な優品、保存状態が良好なもの、バリエーションに富むもの等を総合的に判断しする。また、保存状態が悪いものや現代の製作品は、ハンズオン等の教育普及で活用可能な資料を収集とする。

なお、収集された資料の調査研究成果を積極的に発信し、当館が野馬追資料のセンター的機能を有する施設であることを広く周知することを進め、資料情報が寄せられやすい下地を作る。

7) 東日本大震災関連資料

日本列島で発生した、または今後発生が予想される地震・津波・台風・洪水・火山等の自然災害に対して、被災した人びとや社会がどのように対応し、災害から得た教訓と復興へ向かう姿を克明に記録して保存しつづけることは、歴史をはじめとする各分野において大きな意義がある。

特に、平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震と大津波、この地震に端を発した東京電力株式会社福島第一原子力発電所の放射性物質漏洩事故（以下「原発事故」）による一連の災害は「東日本大震災」とされ、社会的に大きな影響を与えたことから、被災地の博物館として、これらに関連する資料を体系的に収集・保存する。

i) 収集対象

東北地方太平洋沖地震によって発生した大地震と大津波の被害ならびに原発事故を風化させることないように、被害の実態を示す多様な資料を対象とする。収集資料の対象は以下のとおりとする。

- 東北地方太平洋沖地震に関連した被害の実態を示す資料
- 原発事故と市民の避難生活の実態を示す資料
- 東日本大震災からの復興に関する資料

ii) 収集方針

- ◇東北地方太平洋沖地震に関する資料は、津波の威力を示すゆがんだ道路標識に代表される実物資料や、各機関や個人が作成または撮影した写真や動画等の記録資料のほか、被災した人びとの心に刻まれた記憶や各種の証言等の資料も積極的に収集する。
- ◇原発事故に関する資料として、避難指示区域を示す道路標識、放射線量計や防護服、各地区に設置された放射線量測定機器のほか、写真や映像記録、放射線量の増減を示したデータ類、被災した人びとの証言や記憶に関する資料等を積極的に収集する。
- ◇東日本大震災からの復興事業ならびに復興に向けた取り組みに関する行政文書、記録誌、統計資料等の記録、復興状況やまちの移り変わりを示す写真、動画等の資料を積極的に収集する。

2 資料収集の方法

資料は、収集方針を踏まえ、当館の学芸活動ならびに南相馬市教育委員会の調査により収集する。また、収集方針に基づき、個人や他の機関からの寄贈、寄託ならびに購入を行い、収集を行う。

多量な資料、また保管・保存が困難とみられる資料の寄贈・購入等の申出があった場合は、収集展示委員会や関連する博物館・大学等の専門家・機関と協議し、地域資料の散逸を防ぐことを踏まえ、所蔵者の意向と資料価値を確認、検討したうえで、寄贈等の受け入れを判断する。

また、資料の受け入れに際しては、所有者のプライバシー保護の観点から個人情報の取扱いには十分に留意する。

3 収集資料の保存

収集資料は資料カード等を付し、資料の閲覧や研究、活用に利用できる状況を維持する。そして、これらの収集資料を良好な状態で保存するため、資料の管理担当者は資料室の適切な環境維持・管理に留意し、保存科学研究の成果を取り入れるなどさまざまな工夫を行うとともに、資料を円滑に利用できる体制を整える。

収集した資料の状態が著しく損なわれている場合も、資料が持つ本質的価値が失われていないときは、保存処理等の措置を講じて、資料価値の保全に努める。

また、収集資料の質・量ともに充実し、適切に保存するためには、分野ごとの特性を考慮しつつ、必要な収集スペースの確保を図る。

4 収集資料の利活用

収集された資料は、南相馬市内外の研究や展示および学習支援活動に利用する。博物館以外への資料の貸出については、広く南相馬市の文化を周知することにつながることから、資料の状況を踏まえながら、積極的に認める。また、博物館の利用者が博物館資料を閲覧・利用できるよう収集資料のデータベース等のシステムを構築する。

さらに、博物館活動以外にも、生涯学習や写真撮影等の芸術活動といった多様な市民活動への利用も資料の状況に応じて推進する。

5 収集資料の情報発信

当館で収集する資料等およびこれらに関する情報は、市民はもとより国民共有の資産である。したがって、収集資料の電子情報化を推進することにより積極的な公開を図る。そして、資料情報を横断的に検索できるシステムを充実させ、収集資料情報を積極的に発信する。その際には、他の大学や博物館等の研究機関とも連携した情報発信に努める。また、市民活動や他機関で行う研究・展示等への活用を促進する。

6 収集資料の除籍

収集した資料の中で著しい損傷を受けた資料が見つかり、採集情報等の資料に関わる本質的な情報の付与が不可能となった場合は、当該資料の学術的価値は滅失したと判断される。また、収集資料としての希少性が著しく低く、多様な活用にも適さないと判断された場合は、博物館長は南相馬市博物館収集展示委員会の意見を求め、資料の基本的な記録を作成し、所定の手続きを経て資料を除籍することができる。



南相馬市博物館 令和7年度 年報

令和8年8月 発行

編集 南相馬市博物館

〒975-0051 福島県南相馬市原町区牛来字出口194番地

TEL 0244 (23) 6421 FAX 0244 (24) 6933

<https://www.city.minamisoma.lg.jp>

E-mail:hakubutsukan@minamisoma.lg.jp